

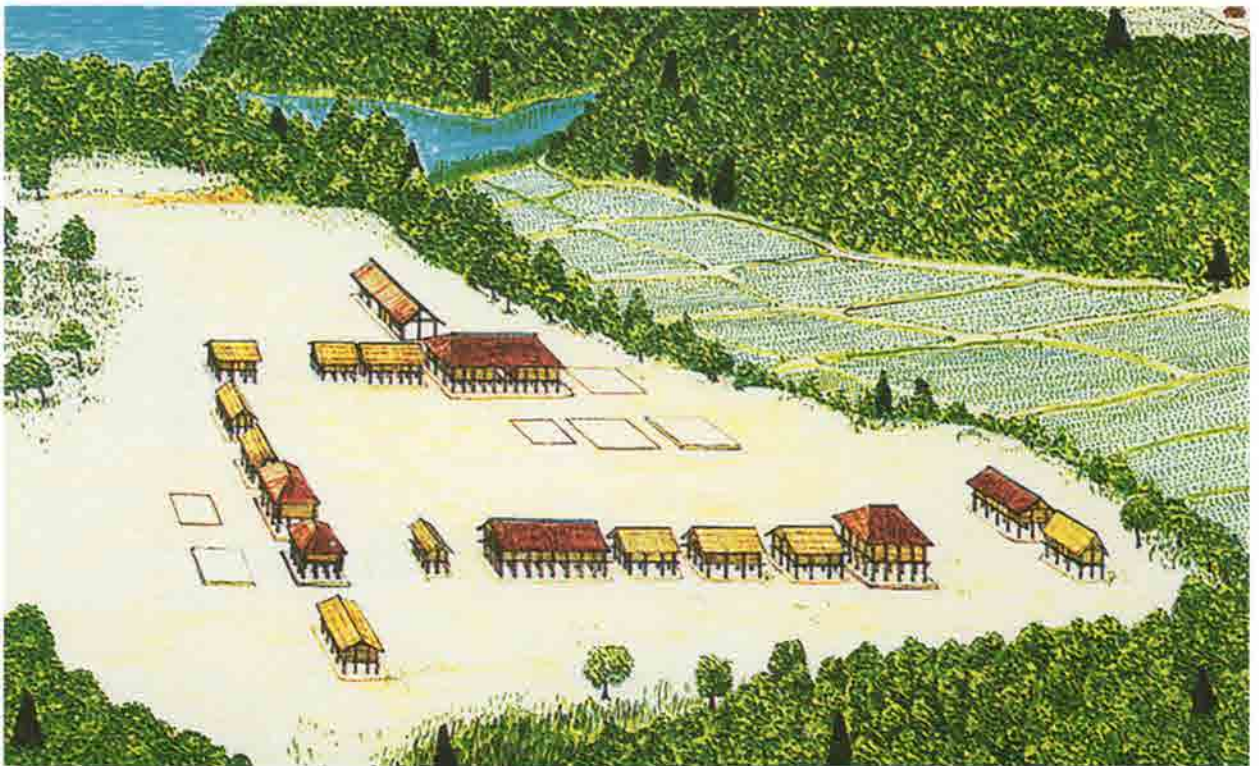
研究紀要 25

平成 18 年 3 月

財団法人 千葉県教育振興財団



日秀西遺跡正倉全景



相馬郡衙正倉復元図

笹生衛画



向台遺跡出土円面硯・風字硯・唐三彩陶枕，大畑Ⅰ遺跡出土墨書土器「厨」



向台遺跡出土畿内産土師器

発刊の辞

財団法人千葉県教育振興財団（財団法人千葉県文化財センターから平成17年9月1日付で名称変更）は、昭和49年11月の創設以来、埋蔵文化財に関する数多くの調査、研究、普及活動を実施してまいりました。その成果は、発掘調査報告書をはじめとする多数の刊行物等に見られるとおりです。

研究活動につきましては、昭和50年度に第1号を刊行しました研究紀要は、以来第11期から第5期に分けて共通のテーマを設定し、これまでに24冊を著しました。この間、昭和60年度には『創立10周年記念論集』、平成6年度には『創立20周年記念論集』、平成16年度には『創立30周年記念論集』を刊行するなど、房総文化の解明に努めてまいりました。

当財団では、数多くの遺跡を調査し、調査報告書や研究紀要を通して各時代・各分野の様々なデータを多量に蓄積してきました。しかしながら、昨今の発掘調査により、新事実が解明される一方においては新たな課題や問題点も生まれ、これらの蓄積資料を改めて整理し分析することが課せられてもいます。

このため、第5期ではこれまでの研究紀要ではとりあげられていなかった各時代の遺跡、遺物、文献等の資料集成を主とし、「各時代における諸問題」と題して新たに展開することにし、平成13年度に本シリーズの成果報告の第1冊目として研究紀要22『尖頭器石器群の研究』、第2冊目として研究紀要23『房総における原始古代の農耕』を刊行しました。

このたび、第3冊目として、研究紀要25『房総における郡衙遺跡の諸問題－下総国を中心に－』を刊行することになりました。

本書が考古学研究はもとより、埋蔵文化財調査の技術向上のための一助として広く活用されることを期待してやみません。

平成18年3月

財団法人 千葉県教育振興財団

理事長 佐藤 健太郎

目 次

房総における郡衙遺跡の諸問題

－下総国を中心として－

巻頭図版

はじめに

I 序章	3
1 房総の郡衙研究略史	3
2 文献目録	4
3 郡郷変遷	9
II 調査された郡衙遺跡の概要	42
1 相馬郡	42
2 埴生郡	53
3 武射郡	59
III 下総地域の官衙関連遺物について	68
1 はじめに	68
2 官衙関連遺物の種類別様相	70
3 墨書土器等の文字資料の様相	79
4 官衙関連遺物出土遺跡の複合分布状況の有する意義	82
IV 郡衙成立の歴史的背景と意義	104
－調査された郡衙を中心に－	
遺跡一覧表	109

卷頭図版

- 図版 1 日秀西遺跡正倉全景
相馬郡衙正倉復元図
- 図版 2 向台遺跡出土円面硯・風字硯・唐三彩陶枕、大畑 I 遺跡出土墨書土器「厨」
向台遺跡出土畿内産土師器

挿図目次

第1図	日秀西遺跡と周辺の遺跡	42
第2図	手賀沼周辺主要古墳分布図	43
第3図	日秀西遺跡建物跡分布図	44
第4図	日秀西遺跡建物群変遷図	45
第5図	建物規模別棟数	45
第6図	日秀西遺跡出土遺物	47
第7図	日秀西遺跡と溝	48
第8図	野守遺跡遺構全体図	49
第9図	西原遺跡第2次調査	50
第10図	各遺跡出土遺物	51
第11図	大畑 I 遺跡と周辺の遺跡	53
第12図	大畑 I 遺跡建物群変遷図	55
第13図	大畑 I 遺跡出土遺物	57
第14図	向台遺跡出土遺物	58
第15図	嶋戸東遺跡と周辺の遺跡	59
第16図	嶋戸東遺跡周辺の地形と古墳群	60
第17図	嶋戸東遺跡全体図	61
第18図	嶋戸東遺跡前期郡庁域	63
第19図	嶋戸東遺跡SB12・SB34	63
第20図	嶋戸東遺跡SB1	63
第21図	前期郡庁想定図	64
第22図	嶋戸東遺跡主要域掘立柱建物跡・柵列跡配置図	65
第23図	下総地域官衙関連遺物出土遺跡分布図	69
第24図	円面硯（1）	71
第25図	円面硯（2）	72
第26図	風字硯	72
第27図	大北遺跡出土官衙関連遺物	74
第28図	小野遺跡出土鈔帯金具	75

第29図	国府台遺跡出土高盤	77
第30図	小貝川川底遺跡出土双耳杯	78
第31図	耳皿	79
第32図	「厨」の墨書土器	81
第33図	駅路の推定	82
第34図	日秀西遺跡（相馬郡衙跡）及び周辺出土の官衙関連遺物	83
第35図	官衙関連遺物出土遺跡集中範囲	85
第36図	流域別主要古墳変遷図	105
第37図	丹過遺跡建物全体図	106
第38図	各遺跡建物主軸方位分布図	107

表 目 次

第1表	郡郷名一覧表	14
第2表	地名関連文字資料一覧表	26
第3表	日秀西遺跡掘立柱建物跡・基壇建物跡一覧表	46
第4表	大畑 I 遺跡掘立柱建物跡一覧表	56
第5表	嶋戸東遺跡掘立柱建物跡・基壇跡一覧表	62
第6表	下総地域官衙関連遺物出土遺跡一覧表	89
第7表	遺跡一覧表	109

はじめに

資料部長 小 宮 孟

財団法人千葉県教育振興財団（財団法人千葉県文化財センターから平成17年9月1日付で名称変更）は、昭和49年に創設以来、埋蔵文化財の発掘調査及びこれに関する研究事業・普及事業を主要な業務としている。

この間、緊急調査と学術調査によって数多くの遺跡を発掘調査し、刊行した調査報告書も500冊以上に達している。さらに、調査を通じて集積された膨大な資料の整理・検討から各時代・各分野の問題点の解明について積極的に取り組んできたところである。

当財団ではそれらの成果を『研究紀要』としてまとめ、昭和51年に第1号を刊行して以来号を重ね、本書で25号を数えるに至っている。

『研究紀要』は、各時代・各分野における文化・遺跡・遺構・遺物等の問題点を抽出し、これらの解明に向けた文献、遺跡・遺物などの資料の収集・整理、そして論考を加えるための共同研究を通して、当センター職員の日頃の研究成果を社会に提示、還元するものである。平成10年度からは第5期として「各時代における諸問題」という新しい主題による研究が開始され、22号・23号でその成果を刊行している。本号では、「房総における郡衙遺跡の諸問題」と題して、主に下総地域を中心に調査された郡衙遺跡をめぐる諸問題についてスポットをあて、郡郷の変遷や古墳時代からの視点も交えて検討を加えることとした。

千葉県内における郡衙遺跡の調査は、1977年に湖北高等学校建設に伴う我孫子市日秀西遺跡が始まりである。この遺跡は、相馬郡衙に伴う正倉跡として広く認識され、その後我孫子市教育委員会による周辺遺跡の調査により徐々に全容が解明されつつある。一方、1980年から3年間にわたって行われた道路建設に先立つ向台遺跡、大畑Ⅰ・Ⅰ-2遺跡の調査により当該遺跡及び周辺が埴生郡衙となる可能性が指摘された。1985年からは官衙の規模などを解明するための確認調査が行われ、その後財団法人印旛郡市文化財センターによる近隣遺跡の調査などが進み、様相が次第に明らかになってきている。また、嶋戸東遺跡は、1991年に宅地造成に伴う財団法人山武郡市文化財センターの調査により、大型の掘立柱建物跡が検出され、注目を浴びた。そこで、官衙関連遺跡確認調査の一環として、千葉県教育委員会から委託を受けた財団法人千葉県文化財センターが、平成9年度から平成16年度まで確認調査を実施し、前期郡庁や後期正倉域などの構造や規模が明らかとなっている。他にも、海上郡衙と推定されている西野遺跡群の調査などが行われているが、いまだ不明な部分が多い。

本書は、平成12年度から平成17年度までの6か年を費やして実施してきた研究成果をまとめたものであるが、遺跡の性格がほぼ想定できる郡衙遺跡を中心に論考を加えたため、国府や郡衙以下の末端官衙遺跡についてはほとんど触れず、官衙関連遺物の論考や一覧表の中で集成している。官衙に関連する広汎な論究はしていないが、今後の郡衙や官衙研究に寄与することがあれば幸いである。本書の執筆分担は以下のとおりであり、編集に当たっては資料部副部長瀬戸久夫が行った。

最後に、共同研究から本編をまとめるまでの間において、関係各位からは多大なるご指導、御協力を頂いた。ここにご芳名を録し、深く感謝の意を表すものである。

〈協力機関〉

市川市教育委員会，市川市立考古博物館，我孫子市教育委員会，市原市教育委員会，(財)市原市文化財センター，(財)千葉県教育振興財団埋蔵文化財センター，人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館，独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所，宇都宮市教育委員会，上三川町教育委員会，(財)とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター

〈協力者〉

秋元陽光，阿部義平，瓦吹 堅，倉田義広，黒沢彰哉，小牧美枝子，高橋康男，田所 真，田中広明，辻 史郎，津野 仁，白田正子，松本太郎，梁木 誠，山路直充，山中敏史，渡辺晃宏

〈担当者〉

平成12年度 香取正彦，金丸 誠，山口典子
平成13年度 香取正彦，金丸 誠，半澤幹雄
平成14年度 金丸 誠，栗田則久，今泉 潔，大野康男
平成15年度 栗田則久，今泉 潔，小林信一，半澤幹雄
平成16年度 栗田則久，今泉 潔，小林信一，半澤幹雄
平成17年度 栗田則久，今泉 潔，小林信一

〈執筆分担〉

栗田則久 I - 2，II - 1・2，IV
今泉 潔 I - 3
小林信一 II - 3，III
半澤幹雄 I - 1

I 序章

1 房総の郡衙研究略史

『延喜式』や『和名類聚抄』には、安房国に平群、安房、朝夷、長狭の4郡、上総国に市原、海上、畔蒜、望陀、周淮、天羽、夷瀧、埴生、長柄、山辺、武射の11郡、下総に葛飾、千葉、印旛、匝瑳、海上、香取、埴生、相馬、猿島、結城、岡田(豊田)の11郡が見られるが、猿島、結城、岡田の3郡は現在の茨城県に位置するため、本県には、23の郡が所在している¹⁾。

本県の郡衙研究は、全国的な官衙遺跡の研究史と同様、歴史地理学的な所在地の比定に始まる。昭和7(1932)年には小熊吉蔵により西上総地域の周淮、畔蒜、望陀、海上、市原、天羽の6郡の郡衙所在地を地名などから比定している²⁾。

本県において郡衙遺跡の発掘調査が実施されたのは、昭和52(1977)年、53(1978)年に調査が実施された我孫子市日秀西遺跡に始まる。日秀西遺跡は現在、相馬郡衙正倉跡に比定されているが、その調査は千葉県立湖北高等学校建設工事に伴い実施され、整然と立ち並ぶ建物群を検出し、県内初の官衙遺跡として校舎位置の変更等により保存が計られ、郡衙正倉のひとつの典型例として郡衙研究に欠かせない資料となっており、平成7年には県指定史跡に指定された。その後、確認調査や周辺遺跡での発掘調査が実施されているが、他の施設や郡衙全体の構造は不明である。また、検出された建物及び建物群については大野康男により詳細な検討が為されている。続いて、昭和55(1980)年から昭和58(1983)年まで、栄町大畑I遺跡の発掘調査が主要地方道成田安食線道路改良工事の施行に伴い実施され、84棟の掘立柱建物跡や西北西約300mに位置する向台遺跡の出土遺物から埴生郡衙の有力な推定地とされた。昭和60(1985)年、昭和61(1986)年に千葉県教育委員会の委託により財団法人千葉県文化財センターが実施した確認調査成果と併せて、館としての機能を想定している。

平成3(1991)年に宅地造成に伴い実施された成東町嶋戸東遺跡では、大規模な掘立柱建物跡と回廊状の掘立柱建物跡を検出し、周辺の古代寺院である真行寺廃寺や古墳群との関連から郡衙関連遺構の可能性が指摘され、平成9(1997)年から平成16(2004)年まで千葉県教育委員会の委託により財団法人千葉県文化財センターが確認調査を実施し、郡庁や正倉域が徐々に明らかとされ武射郡衙の可能性が極めて高いものとなっている。

上総海上郡衙推定地である市原市西野遺跡群では、開発事業に伴う発掘調査及び千葉県教育委員会による確認調査が数次行われ、平成15(2003)年には伊藤智樹によりその成果が総括され正倉や館、厨家の可能性が指摘されている³⁾。

以上、本県の郡衙の研究状況について概観してきたが、昭和50年代以後、郡衙遺跡の発掘調査が実施されてきたが、明確に郡衙と判断されるものはわずかであり、郡庁、正倉、館、厨といった各施設が揃い郡衙全体が捉えられるものは皆無である。

註

- 1 宮原武夫編 1996 『千葉県の歴史』資料編 古代 県史13
- 2 小熊吉蔵 1932 「西上総に於ける古街道と國府郡家所在地との關係」『史跡名勝天然記念物調査』第7輯第4号
- 3 伊藤智樹 2003 「海上郡衙を考える」『市原地方史研究』第20号 市原市教育委員会

2 文献目録

- 古宮 隆信 1972 昭和47年 「中馬場遺跡 妻子原遺跡」 日本国有鉄道常磐線複々線工事関係遺跡調査団
- 栗本 佳弘他 1973 昭和48年 「印内遺跡 小金線」 (助千葉県都市公社)
- 古宮 隆信 1976 昭和51年 「中馬場遺跡第三次発掘調査報告書」 柏市教育委員会 中馬場遺跡第三次発掘調査団
- 西嶋 定生 1976 昭和51年 「我孫子古代・中世史の研究課題」 『我孫子市史研究1』 我孫子市教育委員会
- 青沼 道文 1976 昭和51年 「千葉市芳賀輪遺跡第1次発掘調査概報 千葉市文化財報告第1集」 千葉市教育委員会
- 1977 昭和52年 「千葉市芳賀輪遺跡第3次発掘調査概報 千葉市文化財報告第2集」 千葉市教育委員会
- 山岸 良二 1979 昭和54年 「千葉県柏市根戸 高野台遺跡発掘調査報告書」 柏市教育委員会
- 岡崎 文喜他 1979 昭和54年 「本郷台 奈良・平安時代を中心とした集落址および墓址の調査」 本郷台遺跡調査団
- 1979 昭和54年 「東中山遺跡」 『千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報 昭和53年度』 千葉県教育庁文化課
- 1980 昭和55年 「千葉市芳賀輪遺跡-第7次発掘調査略報-」 千葉市教育委員会
- 上野 純司 1980 昭和55年 「千葉県我孫子市日秀西遺跡発掘調査報告書」 千葉県教育委員会 (助千葉県文化財センター)
- 堀部 昭夫 1980 昭和55年 「千葉県我孫子市 日秀遺跡遺構確認調査概報」 千葉県教育委員会 (助千葉県文化財センター)
- 石井 穂他 1980 昭和55年 「印内台 古墳、奈良平安時代の集落址、墓址の発掘調査概報」 印内台遺跡調査団
- 青沼 道文他 1980 昭和55年 「千葉市芳賀輪遺跡第7次発掘調査略報 千葉市文化財抄報」 千葉市教育委員会
- 佐々木虔一 1980 昭和55年 「古代の結城地方」 『結城市史第四巻古代中世通史編』 結城市
- 1981 昭和56年 「千葉市土気・田向遺跡発掘調査報告書」 千葉市遺跡調査会・田向遺跡発掘調査会
- 古内 茂 1981 昭和56年 「千葉県我孫子市 日秀遺跡遺構確認調査概報」 千葉県教育委員会 (助千葉県文化財センター)
- 桑原 護他 1981 昭和56年 「市営総合運動場内遺跡 昭和55年度埋蔵文化財発掘調査報告」 市川市教育委員
- 上野 純司 1982 昭和57年 「千葉県我孫子市日秀西遺跡発掘調査報告書」 (助千葉県文化財センター)
- 1982 昭和57年 「日秀西遺跡遺構確認調査概報」 (助千葉県文化財センター)
- 1982 昭和57年 「我孫子市埋蔵文化財調査報告第2集」 我孫子市教育委員会
- 岡村 眞文 1982 昭和57年 「我孫子市埋蔵文化財報告第2集 日秀遺跡遺構確認調査 別当地遺跡発掘調査」 我孫子市教育委員会
- 堀部 昭夫 1982 昭和57年 「千葉県我孫子市 日秀遺跡遺構確認調査概報」 千葉県教育委員会 (助千葉県文化財センター)
- 岡村 眞文 1983 昭和58年 「我孫子市埋蔵文化財報告第3集」 我孫子市教育委員会
- 古宮 隆信 1983 昭和58年 「高野台遺跡第一次 柏市埋蔵文化財調査報告書」 柏市教育委員会
- 岡崎文喜他 1983 昭和58年 「本郷台Ⅱ 奈良・平安時代を中心とした集落址および墓址の調査」 船橋市遺跡調査会 本郷台遺跡第二次調査団
- 岡崎 文喜 1983 昭和58年 「下総地方における奈良・平安時代の集落址の一形態 本郷台遺跡を中心として」 遺跡研究会
- 青沼 道文 1983 昭和58年 「千葉市内出土の奈良三彩小壺二例」 『千葉史学第2号』 千葉歴史学会
- 岡村 眞文 1984 昭和59年 「我孫子市埋蔵文化財報告第4集」 我孫子市教育委員会
- 佐々木和博 1984 昭和59年 「『博士館』 墨書土器私考」 『史館第17号』 史館同人
- 青沼 道文他 1984 昭和59年 「千葉市芳賀輪遺跡第2次・7次発掘調査概報 千葉市文化財報告第9集」 千葉市教育委員会
- 村田六郎太 1984 昭和59年 「谷津遺跡 千葉市文化財調査報告書第10集」 千葉市教育委員会
- 岡村 眞文 1985 昭和60年 「別当地・南久保作・北久保作遺跡 我孫子市埋蔵文化財報告第8集」

- 1986 昭和61年 『大北遺跡・谷津遺跡・瓜作遺跡・池田古墳群』 (助千葉県文化財センター)
- 萩原 恭一 1986 昭和61年 『千葉市大北遺跡の検討』 (助千葉県文化財センター)
- 1986 昭和61年 『古代国府関係資料集(その一) 国立歴史民俗博物館研究報告第10集共同研究「古代の国府の研究」』
国立歴史民俗博物館
- 岡村 眞文 1986 昭和61年 『西原遺跡 根戸城跡 我孫子市埋蔵文化財報告第8集』
- 山路 直充 1986 昭和61年 『律令の社会』 『市立市川考古博物館展示解説』 市立市川考古博物館
- 池田 大介他 1986 昭和61年 『大北遺跡・谷津遺跡・瓜作遺跡・池田古墳群 千葉急行線内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ』 (助千葉県文化財センター)
- 1987 昭和62年 『中鹿子第2遺跡』 (遺跡見学会資料) (助千葉市文化財調査協会)
- 渋谷 興平他 1987 昭和62年 『千葉県佐倉市寺崎遺跡群発掘調査報告書 向原遺跡 上城堀遺跡 一本松遺跡』 佐倉市寺崎遺跡群調査会
- 1988 昭和63年 『中鹿子第2遺跡』 『昭和62年度千葉県遺跡調査研究会発表要旨』 千葉県文化財法人連絡協議会
- 木下 良他 1989 平成元年 『国府研究の現状(その二) 国立歴史民俗博物館研究報告第20集共同研究「古代の国府の研究」(続)』
国立歴史民俗博物館
- 1989 平成元年 『千葉市文化財調査協会年報1』 (助千葉市文化財調査協会)
- 横田 正美 1989 平成元年 『千葉県中鹿子第2遺跡』 『日本考古学年報40(1987年度版)』 日本考古学協会
- 石田 守一 1989 平成元年 『チアミ遺跡 我孫子市埋蔵文化財報告第12集』 我孫子市教育委員会
- 斎藤 忠昭 1989 平成元年 『須和田遺跡第4地点 昭和63年度市川市埋蔵文化財発掘調査報告』 市川市教育委員
- 1989 平成元年 『須和田遺跡第9地点 昭和63年度市川市埋蔵文化財発掘調査報告』 市川市教育委員
- 大野 康男 1990 平成2年 『下総国相馬郡正倉跡』 『シンポジウム 関東官衙遺跡の検討』 茨城県考古学協会
- 山口 典子 1990 平成2年 『千葉県文化財センター調査報告第173集 市川市新山遺跡』 (助千葉県文化財センター)
- 道上 文他 1990 平成2年 『印内台遺跡 第7次・8次調査報告書』 船橋市遺跡調査会
- 山路 直充 1991 平成3年 『下総国井上駅について(上)』 『市立市川考古博物館年報第20号』 市立市川考古博物館
- 石坂 雅樹他 1991 平成3年 『印内台遺跡 第4次調査報告書』 船橋市遺跡調査会
- 村田六郎太 1991 平成3年 『新田遺跡 埋蔵文化財調査(市内遺跡) 報告書 平成2年度』 千葉市教育委員会
- 松田 礼子 1992 平成4年 『須和田遺跡第6地点 平成3年度市川市埋蔵文化財発掘調査報告』 市川市教育委員会
- 中村 宜弘 1992 平成4年 『印内台遺跡第11次調査 平成3年度船橋市内遺跡発掘調査報告書』 船橋市遺跡調査会
- 1992 平成4年 『東中山台遺跡(第1・2・3次調査) 平成3年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書』 船橋市教育委員会
- 菊池 健一 1992 平成4年 『千葉市芳賀輪遺跡平成2年度調査報告書』 (助千葉市文化財調査協会)
- 横田 正美他 1992 平成7年 『千葉中央ゴルフ場遺跡群発掘調査報告書 中鹿子第2遺跡(第2分冊)』 (助千葉市文化財調査協会)
- 天野 努他 1992 平成4年 『出土文字資料と地名』 『千葉県史研究第2号』 千葉県
- 阿部 義平 1992 平成4年 『国府と郡衙-下野国府とその周辺-』 『第6回企画展示解説』 栃木県立しもつけ風土記の丘資料館
- 田中 英治 1993 平成5年 『須和田遺跡第21地点 平成3年度市川市内遺跡発掘調査報告』 市川市教育委員
- 大森 隆志 1993 平成5年 『小野遺跡 平成4年度松戸市内遺跡発掘調査概報』 松戸市教育委員会
- 栗原 薫子他 1993 平成5年 『東中山台遺跡(第4次) 平成4年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書』 船橋市教育委員会
- 飛田 正美 1993 平成5年 『千葉市新田遺跡』 (助千葉市文化財調査協会)

進藤 泰浩	1993	平成5年	『千葉県印旛郡印西町駒形北遺跡発掘調査報告書 印西町立小林小学校運動場拡張に伴う埋蔵文化財調査』(財印旛郡市文化財センター)
菊池 健一	1993	平成5年	『千葉市芳賀輪遺跡平成3年度調査報告書』(財千葉市文化財調査協会)
栗原 薫子	1993	平成5年	『印内台遺跡第15次(確認・本調査)平成4年度船橋市市内遺跡発掘調査報告』船橋市教育委員会
大野 康男	1994	平成6年	『古代官衙の終末をめぐる諸問題』東日本埋蔵文化財研究会
川根 正教	1994	平成6年	『加地区遺跡群Ⅲ 町畑遺跡A地点』流山市教育委員会
大森 隆志	1994	平成6年	『小野遺跡第1地点出土遺物について』『松戸市立博物館紀要第1号』松戸市立博物館
松尾 昌彦	1994	平成6年	『下総国のはじまり』『松戸市立博物館常設展示図録』松戸市立博物館
	1994	平成6年	『「厨」銘墨書土器考 松戸市坂花遺跡出土例をめぐって』松戸市立博物館
石坂 雅樹	1994	平成6年	『やさしい郷土の考古学 印内台遺跡について』船橋市史編さん委員会
武田 宗久	1994	昭和49年	『第4節 王朝時代』『千葉市史 第一巻』千葉市
小澤 清男	1994	平成6年	『千葉市芳賀輪遺跡平成4年度調査報告書』(財千葉市文化財調査協会)
山路 直充	1994	平成6年	『下総国分寺後の発掘と下総国府』『東京低地の古代 考古学からみた旧葛飾郡とその周辺』崙書房
栗田 則久	1995	平成7年	『千葉県の古代官衙とその周辺』『シンポジウム3 地方官衙とその周辺』日本考古学協会茨城大会実行委員会 ひたちなか市
白井 太郎	1995	平成7年	『東中山台遺跡群第5次 平成6年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書』船橋市教育委員会
道上 文	1995	平成7年	『東中山台遺跡群第6次 平成6年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書』船橋市教育委員会
白井 太郎	1995	平成7年	『東中山台遺跡群第7次 平成6年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書』船橋市教育委員会
	1995	平成7年	『9. 向境遺跡第1次本調査 平成6年度八千代市埋蔵文化財調査年報』八千代市教育委員会
	1995	平成7年	『10. 境堀遺跡第1次確認本調査 平成6年度八千代市埋蔵文化財調査年報』八千代市教育委員会
山路 直充	1995	平成7年	『「井上」の墨書土器』『下総国分寺』市立市川考古博物館
	1996	平成8年	『下総国シンポジウム2 国府-畿内・七道の様相-』日本考古学協会三重県実行委員会
宮内 勝巳	1996	平成8年	『井戸状遺構について(上)』『史館第28号』史館同人
石坂 雅樹	1996	平成8年	『東中山台遺跡群(8) 平成7年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書』船橋市教育委員会
小林 正之	1996	平成8年	『本郷台遺跡 第6次発掘調査報告書』船橋市遺跡調査会
	1996	平成8年	『16. 向境遺跡第2次確認調査, 第2次本調査 八千代市埋蔵文化財調査年報-平成6年度版-』八千代市教育委員会
	1996	平成8年	『17. 境堀遺跡第2次確認調査, 第2次本調査 八千代市埋蔵文化財調査年報-平成6年度版-』八千代市教育委員会
鶴岡 英一	1996	平成8年	『千葉市芳賀輪遺跡平成6年度調査報告書』(財千葉市文化財調査協会)
大森 隆志	1996	平成11年	『小野遺跡 小野遺跡第1地点発掘調査報告書』松戸市遺跡調査会
藤岡 孝司	1996	平成8年	『古代東国村落の構造-中核集落と衛星集落-』『古代第101号』早稲田大学考古学会
山路 直充	1997	平成9年	『国府台旧所在の六所神社について -古代から近代までの展望-』市立市川考古博物館
	1997	平成9年	『下総国府における主要道路』『平成9年度企画展図録「古代の道と旅」』千葉県立房総風土記の丘
道上 文	1997	平成9年	『印内台遺跡群19 平成8年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書』船橋市教育委員会
石坂 雅樹	1997	平成9年	『印内台遺跡群20 平成8年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書』船橋市教育委員会
	1997	平成9年	『印内台遺跡群21 平成8年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書』船橋市教育委員会

- 石坂 雅樹他 1997 平成9年 『東中山台遺跡群（8・9）埋蔵文化財センター調査報告書第3集』（船橋市文化・スポーツ公社埋蔵文化財センター）
- 寺村 光晴 1997 平成9年 「下総国府研究小史と若干の考察」『国府台7』和洋女子大学文化資料館
- 駒見 和夫 1997 平成9年 「下総国府の現状と一検討 近年における国府台遺跡の調査から」和洋女子大学文化資料館
- 見留 武士 1997 平成9年 「東国国府における鹿犠牲」『国府台7』和洋女子大学文化資料館
- 朝比奈竹男 1997 平成9年 「村上郷の文化人たち」『墨書土器は語る』八千代市歴史民俗資料館
- 1997 平成9年 『発掘を体験！遺跡見学会 上谷遺跡発掘調査』八千代市教育委員会
- 武藤 健一 1997 平成9年 『遺物紹介墨書土器 埋（まい）やちよNo.1』八千代市教育委員会
- 1997 平成9年 「10. 境堀遺跡本調査事業（第2次）八千代市埋蔵文化財調査年報－平成7年度版－」八千代市教育委員会
- 1997 平成9年 「11. 向境遺跡本調査事業（第2次）八千代市埋蔵文化財調査年報－平成7年度版－」八千代市教育委員会
- 1997 平成9年 「13. 上谷遺跡確認調査事業（第2・3次）八千代市埋蔵文化財調査年報－平成7年度版－」八千代市教育委員会
- 1997 平成9年 「13. 境堀遺跡確認調査事業（第3次）八千代市埋蔵文化財調査年報－平成7年度版－」八千代市教育委員会
- 1997 平成9年 「16. 境堀遺跡本調査事業（第3次）八千代市埋蔵文化財調査年報－平成7年度版－」八千代市教育委員会
- 1997 平成9年 「18. 向境遺跡本調査事業（第3次）八千代市埋蔵文化財調査年報－平成7年度版－」八千代市教育委員会
- 糸原 清 1997 平成9年 「房総の古代寺院と交通路 人間・遺跡・遺物3」発掘者談話会
- 道上 文 1997 平成9年 「印内台遺跡群（19）埋蔵文化財センター調査報告第4集」（船橋市文化・スポーツ公社埋蔵文化財センター）
- 鶴見 貞雄 1997 平成7年 「4律令国家と結城廃寺 結城の歴史Ⅰ原始古代」結城の歴史編纂委員会
- 辻 史郎他 1998 平成10年 「チアミ遺跡第1次・第3次・第6次発掘調査報告書」我孫子市教育委員会
- 山路 直充 1998 平成10年 「下総国府における主要道路（補遺）」『市立市川考古博物館研究紀要第2号』市立市川考古博物館
- 1998 平成10年 「下総国府関連遺跡」『千葉県歴史資料編考古3（奈良・平安時代）』千葉県
- 辻 史郎 1998 平成10年 「新山遺跡」『千葉県歴史資料編考古3（奈良・平安時代）』千葉県
- 松本 太郎 1998 平成10年 「須和田遺跡」『千葉県歴史資料編考古3（奈良・平安時代）』千葉県
- 道上 文他 1998 平成10年 「印内台遺跡」『千葉県歴史資料編考古3（奈良・平安時代）』千葉県
- 石坂 雅樹 1998 平成10年 「東中山台遺跡群（10-2）平成9年度船橋市内遺跡発掘調査報告書」船橋市教育委員会
- 1998 平成10年 「東中山台遺跡群（11）平成9年度船橋市内遺跡発掘調査報告書」船橋市教育委員会
- 1998 平成10年 「東中山台遺跡群（12）平成9年度船橋市内遺跡発掘調査報告書」船橋市教育委員会
- 栗原 薫子他 1998 平成10年 「本郷台遺跡」『千葉県歴史資料編考古3（奈良・平安時代）』千葉県
- 武藤 健一他 1998 平成10年 「古代のベルトの飾りの話 埋（まい）やちよNo.2」八千代市教育委員会
- 武藤 健一 1998 平成10年 「遺物紹介温石 埋（まい）やちよNo.3」八千代市教育委員会
- 倉田 義広 1998 平成10年 「千葉市芳賀輪遺跡平成8年度調査報告書」（船橋市文化財調査協会）

青沼 道文	1998	平成10年	「芳賀輪遺跡」『千葉県の歴史資料編考古3（奈良・平安時代）』 千葉県
小林 清隆	1998	平成10年	「谷津遺跡」『千葉県の歴史資料編考古3（奈良・平安時代）』 千葉県
佐々木 慶一	1998	平成10年	「古代の国境としての山河と交通路－房総地方を中心として－」『千葉県史研究第6号』 千葉県
小林 理恵	1998	平成10年	『印内台遺跡群（22）埋蔵文化財センター調査報告第11集』（船橋市文化・スポーツ公社埋蔵文化財センター）
阿部 義平	1998	平成10年	「高岡遺跡群」『千葉県の歴史資料編考古3（奈良・平安時代）』 千葉県
井上 文男	1999	平成11年	「中馬場遺跡（第4次）柏市埋蔵文化財調査報告書38」 柏市教育委員会 柏市遺跡調査会
	1999	平成11年	『千葉県文化財センター年報No24－平成10年度－』（助千葉県文化財センター）
石坂 雅樹他	1999	平成11年	『印内台遺跡群25 平成10年度船橋市内遺跡発掘調査報告書』 船橋市教育委員会
石坂 雅樹	1999	平成11年	『東中山台遺跡群（12）平成10年度船橋市内遺跡発掘調査報告書』 船橋市教育委員会
	1999	平成11年	『東中山台遺跡群（10）千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報 平成9年度』 千葉県教育庁生涯学習部文化課
	1999	平成11年	『東中山台遺跡群（13）千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報 平成9年度』 千葉県教育庁生涯学習部文化課
見留 武士	1999	平成11年	『「シンポジウム東国の国府in WAYO－考古学からみた東国国府の成立と変遷－」に参加して』 国府台9 和洋女子大学文化資料館
蕨 茂美	1999	平成11年	『「上谷遺跡」見学会レポート 埋（まい）やちよNo.4』 八千代市教育委員会
武藤 健一	1999	平成11年	『上谷遺跡の井戸状遺構について 井戸のようで井戸じゃない』 八千代市教育委員会
常松 成人	1999	平成11年	『八千代は墨書のまち。だから…墨書紹介 埋（まい）やちよNo.4』 八千代市教育委員会
	1999	平成11年	『都合のいい土器 八千代は墨書のまち。だから…』 八千代市教育委員会
駒見 和夫	1999	平成11年	『国衙の変遷から国庁を探る 下総の国』【文】の国府を探る 東国の歩みから』 雄山閣
倉田 義広	1999	平成11年	『千葉市猪鼻城跡』（助千葉市文化財調査協会）
石坂 雅樹他	1999	平成11年	『印内台遺跡群（24）埋蔵文化財センター調査報告第8集』（船橋市文化・スポーツ公社埋蔵文化財センター）
川根 正教	2000	平成12年	『加地区遺跡群Ⅳ 町畑遺跡F、G、H地点』 流山市教育委員会
荒井 英樹他	2000	平成12年	『本郷台遺跡 第7次発掘調査報告書』 船橋市遺跡調査会
駒見 和夫	2000	平成12年	『墨書土器による国府の素描』
築瀬 裕一	2000	平成12年	『中世の千葉 千葉市堀内の景観について』 千葉市教育委員会
小林 理恵	2000	平成12年	『東中山台遺跡群（11）埋蔵文化財センター調査報告書第13集』（船橋市文化・スポーツ公社埋蔵文化財センター）
白井 太郎	2000	平成12年	『東中山台遺跡群（12）埋蔵文化財センター調査報告書第14集』（船橋市文化・スポーツ公社埋蔵文化財センター）
石川 功他	2000	平成12年	『古代霞ヶ浦事情－常陸国府とその周辺－』『上高津貝塚ふるさと歴史の広場開館5周年記念展示解説』 上高津貝塚ふるさと歴史の広場

3 郡郷変遷

1. はじめに

ここでいう官衙とは、基本的には考古学的に把握することが可能な郡あるいはそれと同等程度の施設等を想定した、いわゆる官衙関連遺跡をさしている。かつて佐原真が分布論を主題に論じたなかで、国分寺と官衙の遺跡数を問題にしたことがある¹⁾。つまり古代の国・郡の数はわかっているなかで、それまでわかっている両者の遺跡数とでは明らかな差があると指摘する。その理由を、国分寺の遺跡は目に付きやすい遺構・遺物をとどめるのにたいして、官衙遺跡では必ずしもそういう状況にはないからだと説明する。確かに県内でも下総国相馬郡正倉に比定されている日秀西遺跡、埴生郡衙に推定されている大畑遺跡は、調査以前にはこれほどの遺跡内容とは知るよしもなかった。しかしいっぽうで郡衙遺跡を推定する上でひとつの有力な根拠となってきた「こおり(郡・氷・小折等)」等の地名について、たとえば君津市郡遺跡は、周准郡衙の有力な候補地で、その周辺も含めて発掘調査が実施されてきたが、まだ明確な遺構まではみつけるまでにはいたっていない。推定する根拠の難しさをあらためて実感させる。そこで、作業段階の手始めとして、まず図上に郡域を想定することを前提として、ここでは郡域を時空的に検討できるように文字資(史)料を中心に集成し、次の作業へ進む基礎的な資(史)料を提供しておくことにした。当然、郡の構成単位の基本になるのは郷(里)であり、それら各々の領域から図上に示されるようになってきているのが理想ではあるが、その領域は必ずしも長期にわたって踏襲されるものではないことも周知のとおりである。したがって時間的な経過も考慮に入れる必要がある。なお千葉県を総称して房総というように、千葉県は上総国・下総国・安房国からなっているが、一時期安房国は上総国に併合され、また独立するという経緯をたどる。これについては、とくに断らない限り安房国が独立していた時期の領域を想定している。

古代の地名史料としてもっとも価値の高い史料としては、周知のように10世紀前半に成立した『和名類聚抄』がある。記事内容を他の古文書類と比較して成立時期よりは古い段階の内容をもつものとされている。それでも律令制度の整備時期より遅れるのは明らかで、8世紀代の実態を必ずしも反映しているとはいえない。そうした一端は8世紀代の史・資料との比較から、郡域の再編という形で看取できる場合がある。下総国に関連する養老5年(712)の戸籍が正倉院文書に3通知られており、そのなかの「下総国葛飾郡大嶋郷」「下総国釘托(香取)郡少幡郷」の2郷は『和名類聚抄』には記載されていない郷名になる。また平城京左京三条二坊八坪出土木簡に「上総国武昌郡高舎里荏油四升八合和銅六年十月」という内容の荏油の付札がある。武昌郡とは武射郡をさし、「高舎里」の「高舎」は「高文」に音韻変化とも考えられており、「高文」は『和名類聚抄』段階では山邊郡高文郷として掲載されている郷名になる。また郡名を冠した郷ということであれば、『和名類聚抄』段階では武射郷は山辺郡に帰属するが、武射は前代には国造名としてあるわけだから、その版図からいって、武射郡武射郷と考えるのが自然であり、おそらく小河川を境界とする郡域の再編が行われたことを示唆している。同様の例は、葛飾郡には隣郡である豊島郡の郡名をもつ「豊島郷」が掲載されている例がある。直接的な郡名郷ではないが、上総国望陀郡には「安波留」の読みをのせる「畔治郷」があり、音の近似性から隣郡の畔蒜郡の郡名郷だった可能性がある。このように『和名類聚抄』段階の表記とそれ以前とでは、郡の再編も含めて異同があった可能性も考慮に入れる必要がある。

2. 地名の変遷

わが国の地名政策が遅れているといわれてから久しいが、欧米ではすでに歴史性を尊重した地名政策が実施されてきたからに他ならない。たとえばイタリアでは早くも第二次大戦前のムッソリーニの時代(1927年)に地名保護の条項が発令され、その根幹は現代にも継承されているという²⁾。また中国では非漢系少数民族をかかえるという特殊事情もあって、地名自体が今日的な政治課題の一つともなって地名委員会の審議を必要としている。そしてわが国でも一部の自治体で地名に関する法的な保全策が講じられるようになってきた。京都府与謝郡加悦町では昭和54年9月29日に条例第19号として「地名、地形及び区域の記録保存に関する条例」が施行され、大字及び小字について記録保存の措置を講ずるようになったし、愛知県豊明市では昭和52年12月21日に条例第38号として行政区域・町名・地名審議会が設立されることになった。しかし国というレベルでの保全策にはほど遠い状況にあるのは否めない。

ところで古代の地名が現代までどの程度残っているのかということについて、かつて岸俊男が郷里制を検証するなかで、備中国・出雲国を例にあげて、郷名の多くが現代の地名として伝わっているにもかかわらず、里名は現代の地名にはほとんど残されていないと指摘したことがある³⁾。これにたいして館野和己は若狭国・伊豆国の例から、郷名ばかりではなく里名もかなりの頻度で現在の地名のなかに見いだせると指摘した⁴⁾。そこには地域的な問題が厳然として存在しているし、それよりも現代の地名との比較がどれだけ有効かという懸念もあり、にわかには両者の当否まで判断することは差し控えなければならない。ここでは後者の視点から、「地名が残る」ということについて、少し触れておきたい。

現在、毎月数百件にもものぼる地名変更が行われているといわれるが、実はその地名の改変は今に始まったことではなく、すでに古代から中世にかけて国・郡の再編という形で地名の改変が行われてきた経緯はある。しかしそれが明治維新以降になるとその頻度は格段と高くなる。古代と近世末の郷数だけを比較すると『和名類聚抄』では590郡、近世の「天保郷帳」では630郡だったのが、明治20年(1888)には807郡(ほかに市部の区39区、うち北海道79郡2区、沖縄県5郡2区)にまで膨れあがっている。これは必ずしも単一な郡域に基づく変遷ではないから一概に数の比較だけではその本質を見失う可能性もあるが、それでも古代から近世までという時間の長さを考慮に入れば、その変遷は比較的緩やかだったことが窺える。それが「天保郷帳」の数十年後には郡の数が一挙に200近くも増えているわけだから、その変容の大きさは知ることができる。そしてその後も様々な形で地名の改変と、土地と地名の切り離しが行われてきた。その経緯をかいつまんでみておきたい。

現在、「平成の市町村大合併」の最終局面を迎えているが、これまでの地名変遷においても市町村合併が大きな契機となってきた。明治維新後の町村の形態はそれまでの地縁の共同体を基礎としていたが、近代国家の成立を急ぐ新政府は明治4年(1871)に廃藩置県を実施し、その4ヵ月後には戸籍法実施の過程で全国の県を統廃合、3府72県体制とした。郡と町村は当時の府県ごとに数字で区分された大区・小区に再編成され、旧来の郡・町村の区画は完全に無視されてしまった。ところが地租改正・徴兵制の不評に加え自由民権運動や不平士族の反乱が相つぐと、政府はそれまでの大区小区制による中央集権化を一旦中断し、明治11年(1879)に郡区町村編成法、府県会規則、地方税法の地方三新法を施行し、郡区町村編成法により郡・町村を復活し、地方自治制度の基礎がつくられた。そして明治19年(1887)に小学校令・中学校令が公布され、明治21年(1889)4月市制町村制が公布され、その施行に前後して大規模な町村大合併が行われ、近代の市町村合併の第一歩を踏み出すことになった。また従来の合併は主に経費節減が目的であった

のに対して、各町村の自立を促すものであった。つまり100戸以下の弱小町村が7割弱を占め、行政機能の強化を図るために町村規模を拡大していった。これによって、全国の町村数は71,314から一挙に55,494減少して15,820と5分の1に減少した。この合併標準のなかに地名に関して1項設けられており、「例へハ大町村ニ小町村ヲ合併スルトキハ其大町村ノ名・称ヲ以テ新町村ノ名称ト為シ、或ハ殆ト優劣ナキ数多ノ小町村ヲ合併スルトキハ各町村ノ旧名称ヲ参互折衷スル等勉メテ民情ニ背馳セサルコトヲ要ス」とある。前半部分は「大町村名継承原則」で、後半は「参互折衷式」といわれる町村合併を実現するためには二つの地名を犠牲にして新しい名称を認めるというものである。日本における歴史的伝統的地名の受難がこれによって始まるといわれる所以である⁵⁾。なおこの合併より前の町村名は現代の大字・小字に移行しているといわれるが、この大合併の際に、地名と本来の土地との関係が絶たれてしまった例が目立った。榎岡良弼の『日本地理志料』と吉田東伍の『大日本地名辞書』の2書は、そうした時期に編纂されたものである。当時進められていた町村の合併によって生じた地名の盗用を正すのと同時に、本来の地名研究のあり方を示すかのように、それぞれ緻密な考証を経て著し、とくに吉田の仕事は文字通り寝食を忘れ、自らの命を削ってまでも、「日本にはまだ統一した地誌がない」という一念のもとに編纂されたもので、個人が13年間という短期間で成し遂げた仕事量としても驚嘆すべきものであった。また地名研究には一面で懐古的な趣向を持ち合わせるのも否めない事実である。とくに江戸時代以降のおもに文化人の手によって懐古趣味で地名の探索が行われてきた経緯がある。その懐古趣味に警鐘を鳴らしたのも、この2書である。ただ現代の視点からみると、個別な内容では見直すべき事項も決して少なくはない。しかしそれすら体系的な見直しながされてきたいとはいいたいというのが現状であろう。

県内における地名を誤用した実例をあげておくと、古代安房郡健田郷として存在した「健田」という地名を古代に肖ったのであろうが、本来の推定地とはかなりかけ離れた地点に健田村が存在した。また後に望陀と表記される「馬來田」も近代に馬來田村が成立するが、本来の地とは離れた地点を村域として成立している。また誤比定ではないが、2村の村名を「参互折衷方式」で合わせたために、本来の土地との関係が薄れてしまった例もある。たとえば平城京本簡で明らかとなった安房郡片岡郷の故地は現代の館山市水岡であるが、これは清水村と片岡村から一字ずつとって「水岡」村を創生したのに始まる。まさにその典型例である。そして昭和にはいると柳田国男が『地名の研究』で地名改変がどれほどの文化破壊をもたらすかを指摘したものの、「国郡郷などの行政区画名は地名研究の本来のテーマではない」とする否定的評価によって地名研究の遅滞を余儀なくさせる遠因ともなった。

第2次大戦後の昭和21年(1946)9月に市制・町村制・府県制・東京都制、その他関連法の大改正が行われた。昭和28年(1953)10月に町村合併促進法が制定され、新制中学校1校を効率的設置管理するのに必要と考えられた人口規模を念頭に、全国一律に人口8,000人を最小単位として町村合併が進められた。さらに昭和31年(1956)4月には新市町村建設促進法が制定され、市町村数は9,868(市286、町1,966、村7,616)から3,975(市498、町1,903、村1,574)とほぼ3分の1に減少し、ほぼ平成の大合併直前の市町村数の原型をなすにいたった。これ以降数度にわたって市町村合併に関する法律が制定されて、平成の大合併を迎えることになる。こうした経緯のなかで、判例はいくつかあるものの地名を保全するという国策が講じられることはなかった。このように歴史的な地名の多くは歴史のはざまに埋没しかかっているかもしれない。このように政策面では遅れをとったものの、地名の保全に関して有利な点が少なくとも3点はある⁶⁾。1点目は地名に人の名をつける習慣がなかったこと。2点目はアイヌ語を除けば単一言語であるということ。

しかしこれは表記の点において、ほとんどの場合漢字が介在するために、単一言語とはいっても。そして3点目は長い歴史のなかで他国の直接的な支配を受けることがなかったということである。とくに3点目はわが国では経験がないためにその弊害を実感しにくいだが、近年インドでは植民地統治期の英語呼称から、公用語の地名に変わりつつあるという1例をあげておけばわかりやすいかもしれない。しかしこれらは消極的な優位性しかない。しかしわれわれの眼前には、それらを救いあげる厳然とした資(史)料として存在し、そうした作業を進める中で古代の行政区画というものにも意を注いでいきたい。

そうしたことを踏まえれば、透けてしかみえない地名にも光を当てることは可能なはずである。それにはまずは立ち返るのが、まず第1の手段であろう。地名の原義は自然地形に基づくとされている⁷⁾という原点に山口恵一郎も地名の4類型の筆頭に地形語としてあげている⁸⁾。それはかつて吉田秀三が、金田一春彦がよく「アイヌ地名にはうそはありませんね」と云われたことを紹介して⁹⁾、その真意を「地名の正確な原形さえ分っていれば、その場所に行けば、その言葉通りの土地の姿が見られるという意味なのであった。」と解説した内容に言い尽くされているといえよう。

なお古代律令制における国郡郷制は、近代の行政区画とは異なり、それぞれの境界線までを細かく定めたものではなかったと考えている。しかしそこには地理的合理性はあったはずである。当時の生活に根ざした空間領域を検証するのはむずかしいが、一つの参考例として、平野功が指摘した例をあげておきたい。平野は正倉院文書の「下総国鉦托(香取)郡少幡郷 養老5年戸籍」の郷名が、実は小見川町古屋敷遺跡出土の9世紀中頃から後半にかけての墨書土器群に郷名と考えられる「山幡」の墨書があることから、それまで刊本で釈読されてきた「少幡郷」という釈読に疑問を投げかけたことがある¹⁰⁾。そのなかで墨書土器の「山幡」が具体的な土地に根付く資料であることから、合わせて郡境についても論究している。それは8世紀前半代の香取郡山幡郷の推定地と隣郡の海上郡城上郷推定地を地図上で押さえると、直線距離で約1.5kmあり、その間に郡境と想定した。ただし両地点のあいだには台地の基部を浸食した小支谷はあるものの、両地点は同一の台地上に存在するので、明らかな地形等の変換線で線引きできるような環境ではない。『和名類聚抄』には山幡郷という郷名は存在せず、その時期にはその一帯が海上郡に編入されたとも考えられることから、郡境とはいっても厳然とした地形等の変化がなければ、郡や郷の再編が進むなかで、その境界すら動く可能性があることを示唆しているといえるかもしれない。また遺構から郷の境界を認定した例としては、岡山県岡山市の津島遺跡の例がある。そこでは条里制の郷境と考えられる、地割り図に一致する溝がみつまっている。開削時期は不明だが、9世紀代には存在し、中世前半には溝としての役割は終えるようである¹¹⁾。

註

- 1 佐原 真 1985「分布論」『岩波講座日本考古学1 研究の方法』岩波書店
- 2 楠原佑介 2003『こんな市名はもういらない・！ - 歴史的・伝統的地名保存マニュアル』東京堂出版
- 3 岸 俊男 1973「古代村落と郷里制」『日本古代籍帳の研究』塙書房
- 4 館野和己 1995「郷里制の復元的研究 - 二条大路木簡を主たる素材として」『文化財論叢Ⅱ』同朋舎出版
- 5 註1) 前掲書
- 6 田中克彦 1996「名前学からみた固有名詞」『名前と人間』岩波書店
- 7 武光 誠 1999『地名から歴史を読む方法』河出書房新社

- 8 山口恵一郎 1967『地名の成立』徳間ブックス16 徳間書店
柳田国男 1998『地名の話』『柳田国男全集』第7巻 筑摩書房
- 9 吉田秀三 1993「アイヌ語の地名を大切にしたい 抄」『日本の名随筆』別巻27 地名 作品社
- 10 平野 功 1994「古代の地名を考える－小見川町古屋敷遺跡出土の墨書土器を中心として－」『香取民衆史』7
- 11 井上弘ほか 2003『津島遺跡4－岡山県陸上競技場改修に伴う発掘調査』岡山県教育委員会

第1表 郡郷名一覽表

番号	国名	郡名	郷名	〔和名類聚抄〕活字本(元和3年)	〔和名類聚抄〕名博本(永禄9年)	〔和名類聚抄〕東急本(室町中期)	〔和名類聚抄〕高山寺本(平安末)	吉田東伍 1972『増補大日本地名辞書』第6巻 板東 富山房	堀岡良弼 1960『安房・上総・下総』『日本地理志料』改訂房総叢書刊行会
1	安房国	平群郡	砥河郷	砥河郷	砥河郷	砥河郷	砥河郷	国府村・滝田村	戸川村、戸川・上掘・下掘・府中・本織・明石・谷向・川田・三坂・千代
2		平群郡	余戸郷	余戸郷	余戸郷	余戸郷		滝田村(砥河郷の余戸)	合戸村、合戸・竹内・宮谷
3		平群郡	達良郷	達良郷	達良郷	達良郷	達良郷	多々良村	多多良村、多多良・金尾谷・白坂・深名・青木・宮本・大津・手取・居倉・丹生
4		平群郡	石井郷	石井郷	石井郷	石井郷	石井郷	岩井村・岩井袋	岩井袋村、勝山・龍島・大六・岩井袋・久枝・検儀谷原・市部・二部・不入斗・小浦
5		平群郡	狹隈郷	狹隈郷	狹隈郷	狹隈郷	狹隈郷	佐久間村・勝山村	佐久間村、佐久間・佐久間中・佐久間下・奥山・大崩
6		平群郡	長門郷	長門郷	長門郷	長門郷	長門郷	那古町・船形村	平久里村東長藤・西水藤、平久里中・平久里下・山田・荒川
7		平群郡	大里郷	大里郷	大里郷	大里郷	大里郷	平群村	大作村、国分・高井・上野原・北条・八幡・湊・新宿
8		平群郡	川上郷	川上郷	川上郷	川上郷	川上郷	平群村(大里郷内)	川上村、川上・吉井・米澤・犬掛
9		平群郡	穂田郷	穂田郷	穂田郷	穂田郷	穂田郷	保田村	保田村、保田本郷・小保田・元名・吉濱・江月・大帷子・市井原・横根
10		平群郡	駅家郷	駅家郷	駅家郷	駅家郷	駅家郷	穂田郷周辺	
11		平群郡	白浜郷	白浜郷	白浜郷	白浜郷	白浜郷	吉浜	(白濱郷)、正木・亀原・那古・川名・船方・小原
12	安房郡	太田郷	太田郷	太田郷	太田郷	太田郷	未詳 豊房村?	大戸村、大戸・長田・山萩・飯沼・鷹口・南條・大網・眞倉・長須賀・安布里・山本	
13	安房郡	塩海郷	塩海郷	塩海郷	塩海郷	塩海郷	塩見村	鹽海村、鹽海・香村・大賀・笠名・宮城・沼・柏塔・北下臺・岡上須賀・濱上須賀・楠見浦・館山・新井浦	
14	安房郡	麻原郷	麻原郷	麻原郷	麻原郷	麻原郷	未詳 神戸村・西岬村	布沼村・坂井村小原、小沼・坂見・伊戸・坂井・布沼・茂名・洲宮・藤原・岡田・出野尾	
15	安房郡	大井郷	大井郷	大井郷	大井郷	大井郷	九重村大字大井	大井村、大井・水玉蘭・二子・安東・清水・片岡・寶貝・稲村・腰越・廣瀬・江田・竹原	
16	安房郡	河曲郷	河曲郷	河曲郷	河曲郷	河曲郷	館野村(高橋氏文)	川名村、川名・洲崎・阪田・波佐間・加賀名・早物・見物・濱	
17	安房郡	(廣湍郷)							
18	安房郡	白浜郷	白浜郷	白浜郷	白浜郷	白浜郷	白浜郷	長尾村・白浜村	白濱村、白濱・乙濱・白間津・大川・千田・平磯・川口
19	安房郡	神戸郷	神戸郷	神戸郷	神戸郷	神戸郷	神戸村・富崎村	大神宮村(旧名神戸)、中里・犬石・相濱・佐野・布良・根本	
20	安房郡	神余郷	神余郷	神余郷	神余郷	神余郷	神余村	神餘村、神餘・南龍・北龍・松岡・畑・瀧口・横須賀・川下	
21	安房郡	(公余郷)							
22	安房郡	(片岡郷)							
23	安房郡	(利鹿郷)							
24	安房郡	(□□郷)							
25	朝夷郡	御原郷	御原郷	御原郷	御原郷	御原郷	御原郷	三原村・北三原村・和田村	三原村、上三原・中三原・下三原・珠師谷・小戸・岩絲・西原・石神・白渚・和田
26	朝夷郡	新田郷	新田郷	新田郷	新田郷	新田郷	新田郷	健田村	宇田村、瀬戸・宇田・久保・白子・川合・牧田・川戸・大貫
27	朝夷郡	大瀨郷	大瀨郷	大瀨郷	大瀨郷	大瀨郷	大瀨郷	千歳村・豊田村	沼・松田・海發・安馬谷・峯・加茂・杵見
28	朝夷郡	満祿郷	満祿郷	満祿郷	満祿郷	満祿郷	満祿郷	満祿村	丸本郷村、石堂・石堂原・川合・黒岩・宮下・御子神・山名
29	朝夷郡	健田郷	健田郷	健田郷	健田郷	健田郷	健田郷	未詳 莫越山神社周辺?	瀧田村、上瀧田・下瀧田・増間
30	朝夷郡	大津郷	大津郷	大津郷	大津郷	大津郷	大津郷		
31	長狭郡	壬生郷	壬生郷	壬生郷	壬生郷	壬生郷	壬生郷	未詳	星畑村美字、星畑・西野尻・東野尻、上野・中居・二子村比岐、二子・西山・宮下・柴尾・代野・天面・濱波太・岡波太・波太島・太夫崎・吉浦・江見・青木・眞門
32	長狭郡	日置郷	日置郷	日置郷	日置郷	日置郷	日置郷	曾呂村	
33	長狭郡	田原郷	田原郷	田原郷	田原郷	田原郷	田原郷	田原村・由基村	押切、北小町・南小町・上小原・下小原、南小原
34	長狭郡	酒井郷	酒井郷	酒井郷	酒井郷	酒井郷	酒井郷	未詳 吉尾村・大山村	北風原酒酔井、北風原・横尾、大川面・成川・仲村・寺門・細野・松尾寺・宮山
35	長狭郡	伴部郷	伴部郷	伴部郷	伴部郷	伴部郷	伴部郷	西条村	和泉村富部臺、和泉・粟斗・八色・廣場・西村・東村
36	長狭郡	(大伴郷)							
37	長狭郡	賀茂郷	賀茂郷	賀茂郷	賀茂郷	賀茂郷	賀茂郷	鴨川町(加茂川湊)	賀茂川、貝渚・磯・前原・滑谷・來秀・横濱・荒島・辨天島・雀島・海鵜島
38	長狭郡	丈部郷	丈部郷	丈部郷	丈部郷	丈部郷	丈部郷	未詳 天津小湊	大幡村作壁(作掛)、大幡・佐野・古畑・金束・平塚・奈良林・釜沼
39	長狭郡	置津郷	置津郷	置津郷	置津郷	置津郷	置津郷	夷隅郡興津村	興津村、内浦・小湊・大澤・濱行川・興津・守谷・鶴原・薬宿・名木・大森・中里・赤羽根・植野

1959「群郷分治」『房総通史』改訂房総叢書刊行会	『千葉県の地名』日本歴史地名大系第12巻 1996		
国府村・滝田村 未詳	三芳村戸川 未詳	国府村・滝田村 岩井村(合戸・竹内・宮谷)	『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991 『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991
富浦町多々良・八束村	富浦町多田良	富浦村・八束村	『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991
岩井町付近	富浦町岩井・巖南町岩井袋	勝山町岩井村	『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991
佐久間村一帯	巖南町佐久間	佐久間村	『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991
平郡平久里付近	富山町平久里中	平群村	『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991
未詳	三芳村堀之内・御庄・山名	北条町・国府村	『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991
保田町付近	富山町川上	平群村川上・吉澤・犬掛	『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991
平群村川上付近	巖南町保田	保田・本郡・小保田・元名・吉濱	『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991
川上郷の内 未詳	未詳 館山市中沢・稲原	穂田郷の一部を割く	『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991
豊房村大戸付近か	館山市大戸・長田・山萩	大戸村	『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991
西岬村塩見付近	館山市塩見・見物・沼・鏡ヶ浦	山下郡塩見村(里見分限帳)	『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991
神戸村布沼付近か	館山市小原・洲崎・藤原	小沼・坂足・伊井・坂井・布沼・茂名	『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991
九重村大井付近	館山市大井・田辺・齒	九重村・館野村	『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991
西岬村川名付近か	館山市広瀬・腰越・萱野・高井 河曲郷=廣瀨郷	西岬村	『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991
白浜町付近	千倉町白間津・川口	白濱・乙濱・白間津・大川・千田	『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991
神戸村大字神宮付近	館山市大神宮	豊房村・長尾村	『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991
豊房村大字神余付近	館山市神余 公余郷=神余郷 館山市水岡 未詳		
南三原村・北三原村	和田町一帯	上三原村・中三原村・北三原村・珠師ヶ谷・小戸	『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991
健田村付近か	千倉町字田・牧田が有力	健田村・千歳村	『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991
豊田村・千歳村・南三原村か	丸山町安馬谷	沼・松田・海發・安馬谷・峰・加茂・杵見	『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991
丸村付近	丸山町丸本郷・石堂・珠師ヶ谷	丸村(石堂原・川合・黒岩・宮下・御子神)	『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991
健田村、又は滝田村付近か	千倉町南朝夷・北朝夷・白間津 瀬戸川下流域	瀧田村	『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991
曾呂村大字星畑美字付近か	未詳 曾呂川流域は遺跡なし。	曾呂村(星が畑・西野尻・上野)	『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991
曾呂村大字二子字比岐付近か	鴨川市二子・太海・江見	太海村・和田村・江見村	『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991
田原村付近	鴨川市北小町・太田学・上小原	押切・北小町・南小町・上小原・下小原	『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991
未詳	鴨川市北風原・細野・横尾?	北風原・横尾・大川面・成川・仲	『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991
東条村和泉字富部台付近か	鴨川市和泉・広場 大伴郷=伴部郷	西條村・東條村(和泉村富臺)	『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991
鴨川町付近か	鴨川市前原・横渚・貝渚	鴨川町・西條村・田原村	『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991
吉尾村大幡字作壁付近か	鴨川市大幡・佐野・奈良林?	大山村・吉尾村(大幡・佐野・古畑・金東)	『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991
清海村興津付近は、安房郡	天津小湊町・鴨川市興津・鶴原	湊村・清海村・上野村	『千葉縣安房郡誌(復刻版)』(株)千秋社 1991

番号	国名	郡名	郷名	[和名類聚抄]活字本(元和3年)	[和名類聚抄]名博本(永禄9年)	[和名類聚抄]東急本(室町中期)	[和名類聚抄]高山寺本(平安末)	吉田東伍 1972「増補大日本地名辞書」第6巻 板東 富山房	柳岡良弼 1960「安房・上総・下総」日本地理志料 改訂房総書局刊行会
40		長狭郡	賀茂郷	賀茂郷	賀茂郷	賀茂郷	賀茂郷	鴨川町(加茂川湊)	賀茂川、貝渚・磯・前原・滑谷・來秀・横渚・荒島・辨天島・雀島・海瀬島
41	上総国	市原郡	海部郷	海部郷	海部郷	海部郷	海部郷	市西村・五井町	海土村、海士・有木・福増・山倉・西廣・山田橋・小田邊
42		市原郡	市原郷	市原郷	市原郷	市原郷	市原郷	市原村大字市原・能満・門前・郡本	市原村、市原・門前・能満・山木・郡本・藤井・加茂・岩見・惣社・根田・塔塚・西谷
43		市原郡	江田郷	江田郷	江田郷	江田郷	江田郷	未詳 八幡町?	吉澤・新井・山小川・田尾・水澤・鶴舞・久保・池和田・矢田・江古田・米澤・安久谷・牛久・奉免
44		市原郡	湿津郷	湿津郷	湿津郷	湿津郷	湿津郷	湿津村・市東村	潤井戸村、久久津・神埼・萩作・下野・番場・押沼・瀬又・高田・中野・高倉・國吉・金剛地・奈良・古都邊・永吉
45		市原郡	山田郷	山田郷	山田郷	山田郷	山田郷	養老村大字山田	山田村、山田・二日市・土宇・糠挾・川在・新巻
46		市原郡	葉麻郷	葉麻郷	菊麻郷	葉麻郷	菊麻郷	菊麻村	菊間村、菊間・大腕・草刈・古市場・八幡・御所・金杉・君塚・村田・富岡・刈田子・落井・茂呂
47	海上郡	佐三郷	佐三郷	佐三郷	佐三郷	佐三郷	佐三郷	明治村佐是	佐瀬村、佐是・西國吉・栢橋・寺谷・岩崎・上原
48		稲庭郷	稲庭郷	稲庭郷	稲庭郷	稲庭郷	稲庭郷	未詳 内田・池和田・平茂辺	入沼村、入沼・野毛・青柳・出津・玉前・岩崎・五井・平田・村上・根田
49		大野郷	大野郷	大野郷	大野郷	大野郷	大野郷	高滝村大字駒込(大野牧)	折津・大久保・國本・田淵・月出・月崎・柳川・菅野・徳氏・柿木
50		山田郷	山田郷	山田郷	山田郷	山田郷	山田郷	未詳 田代辺	山田久保村、皆吉・大蔵・金澤・岩村・藪・外部田・駒込・山口
51		倉橋郷	倉橋郷	倉郷	倉橋郷	倉橋郷	倉橋郷	未詳 戸田村辺?	未詳、本郷・賀茂・宮原・平野・大戸・萬田野・小佐貫・飯給・小谷田・不入
52		福良郷	福良郷	福良郷	福良郷	福良郷	福良郷	未詳 今富・小折周辺?	未詳(深城村)、豊成・立野・風戸・高根・馬立・宇田・安須・高坂
53		鳥穴郷	鳴穴郷	鳴穴郷	鳴穴郷	鳴穴郷	鳴穴郷	(鳥穴郷) 東海村大字鳥野	鳥穴神社(鳥野村鳥穴)、鳥野・野毛・白塚・二十五里・栢原・畑木・今津朝山
54		馬野郷	馬野郷	馬野郷	馬野郷	馬野郷	馬野郷	姉崎町	未詳、椎津・姉崎・畑木・不入斗・片又木・迎田
55	畔蒜郡	美々郷	美々郷	美郷	美々郷	美郷	未詳	未詳	三田村、西原・山本・茅野・沙田・戸國・眞里・眞里谷・大久保・稲荷塚・百目木・三箇・竹内橋
56		小河郷	小河郷	小河郷	小河郷	小河郷	小河郷	大谷村小川?	大谷村・長谷川村小川、大谷・川谷・小市部・箕輪・吉野・長谷川
57		甘木郷	甘木郷	甘木郷	甘木郷	甘木郷	甘木郷	未詳	林・河原井・永吉・野里・高谷
58		新田郷	新田郷	新田郷	新田郷	新田郷	新田郷	小櫃村大字上新田	新田村、上新田・末吉・俵田・寺澤・青柳・富田
59		椅原郷	椅原郷	椅原郷	椅原郷	椅原郷	椅原郷	眞里谷周辺	蔵玉・釜生・黄和田畑・折木澤・草河原・坂畑・藤林・川俣・笹・高水・柳城・加名盛・大戸見・廣岡
60		三衆郷	三衆郷	三衆郷	三衆郷	三衆郷	三衆郷	未詳 下郡?	未詳 小櫃谷の三黒村?
61	望陀郡	畔治郷	畔治郷	畔治郷	畔治郷	畔治郷	畔治郷	未詳	久留里・市場・浦田・大和田・向郷・富田・栗坪・平山
62		表可郷	表可郷	表可郷	表可郷	表可郷	表可郷	(袁可郷) 奈良輪・蔵波	坂戸市場、奈良輪・神納・中野・牛込・中島・瓜倉
63		会戸郷	会戸郷	倉部郷	会戸郷	倉部郷	倉部郷	黒戸浜、川尻・中島	黒戸濱、畔戸・久津間・萬石・高柳・江川・中里・長須賀・木更津・貝淵・櫻井・請西・大田・相里
64		飯富郷	飯富郷	飯布郷	飯富郷	飯富郷	飯富郷	(飯富郷) 根形村大字飯富	飯富村、飯富・神納・曾根・有吉・井尻・大寺・十日市場・牛袋・牛袋野
65		磐田郷	磐田郷	磐田郷	磐田郷	磐田郷	磐田郷	横田・高谷?	岩出村、岩出・戸崎・青柳・愛宕・大坂・西野・四宮・小瀬・宿戸・大野・宮臺・大山田
66		河曲郷	河曲郷	河曲郷	河曲郷	河曲郷	河曲郷	未詳 岩根村	貝淵・宗政・川久保・大川原
67		鹿津郷	鹿津郷	鹿津郷	鹿津郷	鹿津郷	鹿津郷	未詳	(麓津)、大鳥居・笹子・犬成・中尾・椿・菅生・祇園・長井作
68	周准郡	山家郷	山家郷	山家郷	山家郷	山家郷	山家郷	三島村・秋元村	奥米・旅名・正木・奥畑・原宿・大岩・辻森・日笠・平田・粟倉・猪原
69		山名郷	山名郷	山石郷	山名郷	山名郷	山名郷	周南村・貞元村・郡村	山野村、大山野・小山野・濱古・常代・宮下・泉・六手・皿引・尾車・馬登・草牛・作木・鹿野
70		額田郷	額田郷	額田郷	額田郷	額田郷	額田郷	中村・小糸村	糠田村、糠田・中島・大井・大谷・行馬・根本・塚原・福岡・白駒・萩作・絲川・鎌瀬・市宿・日渡根・大野臺・法木作・長石
71		(額部郷)							
72		(額部郷)							
73		三直郷	三直郷	三直郷	三直郷	三直郷	三直郷	八重原村大字三直	三直村、三直・上村・練木・大鷲・外箕輪・内箕輪・法木
74		丸田郷	丸田郷	丸田郷	丸田郷	丸田郷	丸田郷	周西村	大和田村(上總和田城)、大和田・人見・大堀・坂田・畑澤・小濱・上島田・中島田・下島田
75		湯坐郷	湯坐郷	湯坐郷	湯坐郷	湯坐郷	湯坐郷	貞元村湯江・飯野村	(油江郷)、上湯江・下湯江・中富・前久保・臺・中野・久保
76		藤部郷	藤部郷	藤部郷	藤部郷	藤部郷	藤部郷	(篠部郷) 篠部村	貞元・新御堂・杉谷・小香・八幡・笠師・法木・南子安・北子安
77		勝部郷	勝部郷	勝部郷	勝部郷	勝部郷	勝部郷	(勝川郷) 未詳	藤部郷の重複
78	勝川郷	勝川郷	勝川郷	勝川郷	勝川郷	勝川郷	勝川郷	未詳	

1959「群郷分治」『房総通史』改訂房総叢書刊行会	『千葉県の地名』日本歴史地名大系第12巻 1996		
	鴨川市太尾・板東・京田？		
市西村大字海士有木付近か	市原市海士有木		
市原村市原付近	市原市能満・門前・郡本		
山村大字吉沢付近	未詳		
湿津村潤井戸付近	市原市潤井戸		
養老村大字山田付近か	市原市山田		
菊間村付近	市原市菊間		
明治村佐是か	市原市佐是		
東海村飯沼か 不明	未詳		
未詳	未詳		
	市原市山田久保		
未詳	未詳		
未詳	未詳		
鳥穴神社付近	市原市鳥野		
姉崎町椎津付近か	中世馬野郡の一部 市原市西北部		
未詳	君津市三田？	君津市三田	『袖ヶ浦市史』通史編 原始・古代・中世 2001
小櫃村大字俵田の旧名小川か	君津市大谷？	君津市大谷村、御腹川	『袖ヶ浦市史』通史編 原始・古代・中世 2001
未詳	未詳	—	『袖ヶ浦市史』通史編 原始・古代・中世 2001
小櫃村大字上新田付近か	君津市新田	—	『袖ヶ浦市史』通史編 原始・古代・中世 2001
未詳	未詳	—	『袖ヶ浦市史』通史編 原始・古代・中世 2001
未詳	木更津市下郡？	—	『袖ヶ浦市史』通史編 原始・古代・中世 2001
未詳	木更津市笹子・椿	木更津市笹子・椿、君津市久留里	『袖ヶ浦市史』通史編 原始・古代・中世 2001
未詳	袖ヶ浦市奈良輪？	袖ヶ浦市奈良輪	『袖ヶ浦市史』通史編 原始・古代・中世 2001
倉戸か 金田村大字畔戸か	木更津市畔戸	木更津市畔戸	『袖ヶ浦市史』通史編 原始・古代・中世 2001
根形村大字飯富	袖ヶ浦市飯富	袖ヶ浦市飯富	『袖ヶ浦市史』通史編 原始・古代・中世 2001
小櫃村大字岩出 根形村岩井か	袖ヶ浦市岩井？君津市岩出	君津市岩出	『袖ヶ浦市史』通史編 原始・古代・中世 2001
平岡村川原井又は小櫃村川久保か	木更津市万石？袖ヶ浦市川原井	袖ヶ浦市川原井	『袖ヶ浦市史』通史編 原始・古代・中世 2001
根形村大字勝か	袖ヶ浦市勝	袖ヶ浦市勝	『袖ヶ浦市史』通史編 原始・古代・中世 2001
三島村	君津市市宿・日渡根？		
周南村大字大山野・小山野付近か	君津市大山野・郡？		
中村大字糠田付近	君津市糠田		
八重原村大字三直付近	君津市三直		
未詳	君津市大和田？		
貞元村大字上湯江付近	君津市上湯江・下湯江		
未詳	未詳		
未詳			
未詳	未詳		

番号	国名	郡名	郷名	[和名類聚抄]活字本(元和3年)	[和名類聚抄]名博本(永禄9年)	[和名類聚抄]東急本(室町中期)	[和名類聚抄]高山寺本(平安末)	吉田東伍 1972 「増補大日本地名辞書」第6巻 板東 富山房	郵岡良弼 1960 「安房・上総・下総」 「日本地理志料」改訂房総叢書刊行会
79		周淮郡	(種泚郷)						
80		埴生郡	埴生郷	埴生郷	埴生郷	埴生郷	埴生郷	東浪見村・一宮町	一宮・宮原・東浪見・岩井・小瀧・阿須谷・上市場・川島・金田・信友・岩沼・七井戸・水口・宮成・一松・砂島
81		埴生郡	埴石郷	埴石郷	埴石郷	埴石郷	埴石郷	未詳 一宮金田・岩沢	(高石) 高師村・茂原・鷲巣・箕輪・榎木・岩川・須田・石神・八幡原・大芝・木崎・町保・千町・谷本
82		埴生郡	小田郷	小田郷	小田郷	小田郷	小田郷	(山田郷)	(山田郷) 北山田・寺崎・下之郷・上之郷・森・長樂寺・大谷木・芝原・三谷・永吉・台田・野牛
83		埴生郡	坂本郷	坂本郷	坂本郷	坂本郷	坂本郷	疋南町大字坂本	坂本村・坂本・中善寺・網島・關原・米満・千田・今泉・本臺
84		埴生郡	横栗郷	横栗郷	横栗郷	横栗郷	横栗郷	未詳	(餘戸里) 竹林・岩撫・茗荷澤・小澤・佐坪・市之野・水沼・山内
85		埴生郡	河家郷	河家郷	河家郷	河家郷	河家郷	未詳	未詳 給田・地引・中原・報恩寺・上小野田・下小野田・小生田・葛田・大井・西湖・久原・永井
86		埴生郡	(山田郷)					土賤村大字山田	
87		長柄郡	刑部郷	刑部郷	刑部郷	刑部郷	刑部郷	水上村(刑部)・日吉村	刑部村・刑部・金谷・田代・高山・大庭・笹森・大津倉・立島・櫻谷・長富・徳増・小榎木
88		長柄郡	管見郷	管見郷	管見郷	管見郷	管見郷	未詳 長柄村・二宮村	中郷・高根本郷・中里・吉所・八斗・五井・鷲・日當・關・福島・小豊
89		長柄郡	車持郷	車持郷	東崎郷	車持郷	車持郷	疋南町・豊栄村	葦持村・葦持・深澤・長南・千手堂・又富・棚毛・錫谷
90		長柄郡	兼陀郷	兼陀郷	兼陀郷	兼陀郷	兼陀郷	(邑陀郷) 新治村・豊田村	(二宮庄邑郷) 上大田・下大田・桂・吉井・柴名・大登・上野・味庄・船木・眞名・庄吉・国府關
91		長柄郡	柏原郷	柏原郷	柏原郷	柏原郷	柏原郷	(柏原郷) 帆丘町・豊岡村	(柏原) 萱場・本納・法目・高田・澗谷・腰當・北塚・弓渡・吉田・粟生野・御蔵・芝
92		長柄郡	谷部郷	谷部郷	長谷部郷	谷部郷	谷部郷	茂原町大字長谷	長谷村・内長谷村・上林・小林・押日・山崎・蘆網・方丸・千代丸
93		山邊郡	天生郷	天生郷	天生郷	天生郷	天生郷	福岡村・増穂村	粟生村・粟生・片貝・小關・御門・荒生・大沼・西野・貝塚・眞龜・沼田・今泉・四天木
94		山邊郡	岡山郷	岡山郷	岡山郷	岡山郷	岡山郷	丘山村・東金町	東金町(旧名岡山村) 東金・田開・臺方・大豆谷・油井・菱沼・二又・前内・中野・殿庭・北幸谷・掘上・川場
95		山邊郡	菅屋郷	菅屋郷	菅屋郷	菅屋郷	菅屋郷	(菅谷郷) 松之郷菅谷	松郷村菅谷・本郷・松郷・道庭・家ノ子・三箇尻・酒蔵・濃澤・植草・布田・極楽寺・武勝
96		山邊郡	山口郷	山口郷	山口郷	山口郷	山口郷	大和村大字山口	山口村・田中・小野・丹尾・山田・養安寺・小西・福俵・押堀
97		山邊郡	高文郷	高文郷	高父郷	高文郷	高文郷	山辺村大字金谷字高文	金谷村高文(高海寺) 金谷・長谷・小沼・名村・眞行・餅木・土氣・高津戸・大和田・大木戸・越智
98		山邊郡	草野郷	草野郷	草野郷	草野郷	草野郷	瑞穂村大字萱野	茅野村・茅野・砂田・神房・小田・大椎・小食土・南玉・池田・小中村
99		山邊郡	武射郷	武射郷	武射郷	武射郷	武射郷	豊成村大字武射田	武射田村・上武射田・下武射田・求名・白幡・作田・松谷・井内・本須賀・五木田
100		武射郡	巨備郷	巨備郷	巨備郷	巨備郷	巨備郷	折戸村折戸大神宮(巨備神社)	折戸村大宮(古称巨備神社) 折戸・借毛本郷・木戸・平野・下野・廣根・高富・上横地・下横地・草深・小松
101		武射郡	加毛郷	加毛郷	加毛郷	加毛郷	加毛郷	千代田村	加毛郷 西加茂・東加茂・住母家・稲葉・白升・坂志岡・菱田・岩山・朝倉・飯櫃
102		武射郡	理倉郷	理倉郷	理倉郷	理倉郷	理倉郷	(浅倉郷) 未詳	曾根合村・於幾・坂田・寺方・取立
103		武射郡	狛養郷	狛養郷	狛養郷	狛養郷	狛養郷	(押熊郷) 大総村(牛熊村)	牛熊村・牛熊・木戸臺・小堤・谷臺・殿部田・高谷・宮崎
104		武射郡	長倉郷	長倉郷	長倉郷	長倉郷	長倉郷	大総村(長倉村)	長倉村・長倉・姥山・遠山・中臺・柴山・山中
105		武射郡	畔代郷	畔代郷	畔代郷	畔代郷	畔代郷	未詳	未詳 成東・富田・新泉・津邊・市場・親田・川崎・和田・矢部・湯坂・島・殿臺
106		武射郡	片野郷	片野郷	行野郷	片野郷	片野郷	松尾村八田・猿尾	(山邊莊片野郷) 猿尾・八田・大堤・蕪木・松尾・田越・五反田・祝田・高富・水深
107		武射郡	大蔵郷	大蔵郷	大蔵郷	大蔵郷	大蔵郷	豊岡村大蔵	上大蔵村・下大蔵村・芝原・早船・寺崎・眞行寺・島戸・野堀・麻生・小川・戸田
108		武射郡	新居郷	新居郷	新居郷(夷瀧郡に表記)	新居郷	新居郷	二川村大字新井田	新井田村・新井田・小池・高田・大臺・山田・牧野
109		武射郡	新屋郷	新屋郷	新屋郷	新屋郷	新屋郷(夷瀧郡と重複)	(新泉郷) 成東町	未詳・重複
110		武射郡	埴屋郷	埴屋郷	埴屋郷	埴屋郷	埴屋郷(夷瀧郡と重複)	睦岡村・日向村	埴谷村・埴谷・横田・沖渡・實門・小原・諸木・中臺・寺臺・大木・木原・板中
111		武射郡	(高倉郷)						
112		天羽郡	三宅郷	三宅郷	三宅郷	三宅郷	三宅郷	環村	小倉村・中倉・御代原・小畑・宇藤木・松節・神徳・大和田・大川崎・高溝・宇藤原・田倉

1959「群郷分治」『房総通史』改訂房総叢書刊行会	『千葉県の地名』日本歴史地名大系第12巻 1996		
長生郡西南を今なお殖生という	一宮町域？		
未詳	未詳		
東村小生田、上小野田か	長南町小野田		
疋南町大字坂本付近か	長南町坂本		
未詳	長南町竹林・市野々？		
土睦村河須ヶ谷付近か	長南町小野田・小生田？		
水上村刑部付近か	近世刑部村（長柄町）		
土睦村大字寺崎は勝見という	未詳		
疋南町大字蔵持か	近世蔵持村（長南町）		
八積村金田か	未詳 中世長柄郡金田郷		
本納町大字萱場か	（栢原郷）茂原市萱場		
茂原町大字長谷付近か	未詳		
豊海村栗生	近世栗生村（九十九里町）		
東金町（もと岡山村）	近世東金村付近岡山村		
公平村松之郷菅谷	未詳		
大和村大字山口付近	近世山口村（東金市）		
山辺村大字金谷字高海（寺）	大網白里町金谷郷高海？		
瑞穂村大字萱野か	近世萱野村（大網白里町）		
豊成村大字上武射田・下武射田	近世上・下武射田村（東金市）		
大平村大字折戸（大宮神社）	未詳		
千代田村大里（東加茂・西加茂）	近世賀茂村（芝山町）		
未詳（千代田村大字朝倉か）	未詳		
大総村大字牛熊か	未詳		
大総村大字長倉	近世長倉村（横芝町）		
未詳	未詳		
松尾町付近（もと片野郷）	未詳		
豊岡村大字上大蔵・下大蔵	近世上大蔵村・下大蔵村（松尾町）		
二川村大字新井田	近世新井田村（芝山町）		
未詳	未詳 誤記？		
睦岡村大字埴谷	山武町埴谷		
豊岡村小倉、中小倉か	富津市小倉？	旧環村・湊川上流域	『富津市史』通史 1982

番号	国名	郡名	郷名	〔和名類聚抄〕活字本(元和3年)	〔和名類聚抄〕名博本(永禄9年)	〔和名類聚抄〕東急本(室町中期)	〔和名類聚抄〕高山寺本(平安末)	吉田東伍 1972 「増補大日本地名辞書」第6巻 板東 富山房	邸岡良弼 1960 「安房・上総・下総」『日本地理志料』改訂房総叢書刊行会
113		天羽郡	讃岐郷	讃岐郷		讃岐郷		佐貫町	佐貫町、佐貫、亀田、八幡、鶴岡、花香谷、寶龍寺、亀澤、谷田沼、小久保、岩瀬、絹、大和田
114		天羽郡	長津郷	長津郷		長津郷		湊町	(長濱村)、湊、数馬、笹毛、岩坂、望井、木村、臺原、加藤
115		天羽郡	雨霈郷	雨霈郷		雨霈郷		壳津 金谷村、竹岡村、天神山村	寶津村、寶津、相川、横山、不入斗、花輪、海良、長崎、百首、萩生、金谷
116		天羽郡	(宇部郷)						
117		夷漣郡	雨霈郷	雨霈郷		雨霈郷		未詳 夷隅川下流域	—
118		夷漣郡	蘆道郷	蘆道郷		蘆道郷		中魚落村、御宿村、東海村	伊保田村、伊保田、小澤又、栗又、面白、筒森、大田代、小田代、葛藤、板谷、市川、中野、紙敷、小苗、湯倉、松尾、小内、彌喜用、莊司、掘切、三條、田代、弓木
119		夷漣郡	荒田郷	荒田郷		荒田郷		大多喜町、国吉町	新田野村、新田野、高谷、佐室、新田、深堀、大原、小濱、若山、日在、三門、東小高、下原、細尾、萬木、嘉谷
120		夷漣郡	長狭郷	長狭郷		長狭郷		東村大字長志	長志村、長志、澤部、山田、国府臺、釈迦谷、上布施、下布施、魚落、雜式、貝須賀、小澤、岩船、小瀧、高山田、久保、岩和田
121		夷漣郡	白羽郷	白羽郷		白羽郷		未詳 西畑、松野周辺?	白木村、白井久保村、川畑、佐野、杉戸、市野郷、市野川、平澤、宇筒原、三叉、黒原、押原、笹倉、百鈴、久我原、大戸、部田
122		夷漣郡	余戸郷	余戸郷		余戸郷		未詳	未詳(新戸村)、宿戸、白木、白井久保、芳野、蟹田、大桶、松野、小松野、小羽戸、貝掛、法花、荒川
123	下総国	葛飾郡	度毛郷	度毛郷	度毛郷	度毛郷	度毛郷	未詳 戸崎、八木郷?	關宿、高野、新田戸、中戸、桐作、古布内、親井、次木、寶珠花、木間瀬、岡田、金野井、中里、船形、尾崎、五木、吉春、柳澤、中根、野田、花輪、山崎、清水
124		葛飾郡	八島郷	八島郷	八島郷	八島郷	八島郷	(大島郷) 大島村	(大島)・上大島村、高野、下高野、下野、茨島、吉野、天神島、幸手、国府間、権現堂、高須賀、平須賀、松石、吉羽、木立、上戸、安戸
125		葛飾郡	新居郷	新居郷	新居郷	新居郷	新居郷	新居郷	新井村、新井、栗橋、間鎌、廣島、中里、島川、河原代、高柳、佐間、松長、伊坂、下新井
126		葛飾郡	桑原郷	桑原郷	桑原郷	桑原郷	桑原郷	未詳 八木郷?	堤根(桑崎、桑塚)、本郷、堤根、杉戸、清地、倉松、蓮沼、大塚、小湖、八丁目、樋龍、牛島、上柳、下柳、金崎
127		葛飾郡	栗原郷	栗原郷	栗原郷	栗原郷	栗原郷	葛飾村大字小栗原、本郷	本郷村、小栗原村、本郷、二子、中山、小栗原、鬼越、高石神、北方、上山、吉作、若宮、寺内、原木、田尻、稲荷木、行徳、關方島
128		葛飾郡	豊島郷	豊島郷	豊島郷	豊島郷	豊島郷		武蔵国葛飾郡田島村、松伏、大川戸、赤沼、金杉、赤岩、内川、八子、廣島、鍋小路、川藤、中井、吉川、平沼
129		葛飾郡	余戸郷	余戸郷	余部郷	余戸郷			新宿、金町、柴又、小合、猿俣、鎌倉、長沼、戸崎、酒井、境木、谷中、花和田、彦江、彦澤
130		葛飾郡	駅家郷	駅家郷	駅家郷	駅家郷		(馬津郷) 松戸	松戸、小山、岩瀬、和名谷、花島、上木郷、竹鼻、古崎、馬橋、栗澤、小金、平賀、酒井根、大谷口、主水
131		葛飾郡	(大島郷)						
132		千葉郡	千葉郷	千葉郷	千葉郷	千葉郷	千葉郷	千葉寺、生実、浜野	千葉町、千葉寺、仁戸名、川戸、和佐、川井、富岡、大森、小花輪、遍田、平山、野呂
133		千葉郡	山家郷	山家郷	山家郷	山家郷	山家郷	未詳 二宮村、大和田村?	三山、田木井、大久保、瀧臺、薬園臺、飯山間、前原、藤崎、谷津、久久田、霧沼
134		千葉郡	池田郷	池田郷	池田郷	池田郷	池田郷	千葉町	池田町、千葉、寒川、登戸、矢作、五反保、今井、曾我野、生實、濱野
135		千葉郡	三枝郷	三枝郷	三枝郷	三枝郷	三枝郷	都賀村大字作草部	作草部村、作草部、高品、貝塚、邊田、殿臺、萩臺、寺山、川邊、黒砂、稲毛、齒生、小中臺
136		千葉郡	糟荻郷	糟荻郷	糟荻郷	糟荻郷	糟荻郷	都村大字加曾利	加曾利村、星久喜、長峰、坂尾、坂月、大草、小倉、金親、上泉、下泉、北谷津、多部田
137		千葉郡	山梨郷	山梨郷	山梨郷	山梨郷	山梨郷	旭村大字山梨	山梨村、山梨、中野、中臺、成山、馬渡、坂戸、吉岡、波佐間、和田、小名木、鹿渡、和良比
138		千葉郡	物部郷	物部郷	物部郷	物部郷	物部郷	千代田村大字物井	物井村、物井、篠塚、長岡、内黒田、野田
139		印旛郡	八代郷	八代郷	八代郷	八代郷	八代郷	公津村大字八代	八代村、公津、船形、北須賀、臺方、下方、江弁須、大袋、飯田、飯仲、伊篠、岩橋、柏木
140		印旛郡	印幡郷	印幡郷	印幡郷	印幡郷	印幡郷	未詳 酒々井町?	佐倉、本佐倉、大佐倉、酒酒井、下臺、中川、飯田、萩山、土浮、飯野、岩名、山崎
141		印旛郡	言美郷	言美郷	言美郷	言美郷	言美郷	(登美郷) 本郷村、木下町	(登美)、平岡村鳥見明神、小林、木下風、竹袋、大森、別所、宗甫、瀧、物木、砂田、笠神、行徳、萩原、中田切、松木
142		印旛郡	三宅郷	三宅郷	三宅郷	三宅郷	三宅郷	未詳 小倉村?	小倉村、小倉、浦部、白幡、和泉、平塚、清戸、谷田、神神廻、長殿
143		印旛郡	長隈郷	長隈郷	長隈郷	長隈郷	長隈郷	和田村大字長熊	長熊村、上代、八木、城、寒風、馬橋、墨、飯積、新橋、中澤、雁丸、榎戸
144		印旛郡	鳴矢郷	鳴矢郷	鳴矢郷	鳴矢郷	鳴矢郷	(カブラギ) 佐倉町鍋木	高岡、六崎、石川、寺崎、高崎、龜崎、大田

1959「群郷分治」『房総通史』改訂房総書刊行会	『千葉県の地名』日本歴史地名大系第12巻 1996		
佐貫町付近	富津市佐貫	旧佐貫町地区	『富津市史』通史 1982
湊町付近	富津市湊？	旧湊町	『富津市史』通史 1982
天神山村壳津付近か	富津市壳津？	旧天神山村地域 金谷地区	『富津市史』通史 1982 『富津市史』通史 1982
未詳	天羽郡に同名郷あり		
大原町中魚落村、又は西畑村伊保田か	大原町中魚落？、大多喜町伊保田？		
東村大字新田野	大原町新田野？、大多喜町域？		
東村大字長志	大原町・御宿町布施地区		
未詳	未詳		
総野村大字新戸（古く新戸郷）			
関宿町、又は明村大字上本郷	野田市？		
東京市葛飾区柴又・小岩	（大島郷）江戸川区・葛飾区		
武蔵国北葛飾郡旧新井村・埼玉郡新井下新井	東京都域？		
武蔵幸手領旧提根村桑崎・桑塚	流山市・松戸市？		
東葛飾郡葛飾村大字本郷小栗原	近世小栗原村・二子村（船橋市）		
武蔵国松伏領田島村	未詳		
未詳 武蔵国二合半領田金町新宿付近	未詳		
東葛飾郡松戸町大字松戸駅	市川市市川周辺？		
千葉市付近	中央区蘇我町・大森町・浜野町		
未詳	千葉市西北部・習志野市		
千葉市亥鼻台池田坂	中央区星久喜町・仁戸名町		
都賀村大字作草部	近世作草部村（千葉市稲毛区）		
千葉市加曾利町	近世加曾利村（千葉市若葉区）		
印旛郡旭村大字山梨付近	近世山梨村（四街道市）		
印旛郡千代田村物井付近か	近世物井村（四街道市）		
公津村大字船形	成田市八代		
未詳 佐倉町酒々井付近か	酒々井町本佐倉？		
木下町平岡の鳥見付近か	未詳		
永治村大字小倉・浦辺付近か	印西市小倉？		
和田村大字長熊か	佐倉市長熊		
未詳	未詳		

番号	国名	郡名	郷名	〔和名類聚抄〕活字本(元和3年)	〔和名類聚抄〕名簿本(永禄9年)	〔和名類聚抄〕東急本(室町中期)	〔和名類聚抄〕高山寺本(平安末)	吉田東伍 1972 『増補大日本地名辞書』第6巻 板東 富山房	福岡良弼 1960 『安房・上総・下総』〔日本地理志料〕改訂房総叢書刊行会
145		印幡郡	吉高郷	吉高郷	吉高郷	吉高郷	吉高郷	六合村大字吉高	吉高村、平賀、山田、瀬戸、松森、荒野、龍腹寺、角田、鎌刈、大廻
146		印幡郡	船穂郷	船穂郷	船穂郷	船穂郷	船穂郷	船穂村、宗像村	船尾村、多多羅田、戸神、武西、安養寺、松崎、結縁寺、造谷、吉田、岩戸、師戸
147		印幡郡	日理郷	日理郷	日理郷	日理郷	日理郷	白井町	白井驛津渡、白井、白井田町、白井臺町、上座、小竹、青菅、江原、角來
148		印幡郡	村神郷	村神郷	村神郷	村神郷	村神郷	阿蘇村大字村上	村上村、村上、米本、上高野、下高野、神野、保品、先崎
149		印幡郡	余戸郷	余戸郷	余戸郷	余戸郷	余戸郷	和田村大字天辺	天邊村、天邊、直彌、宮本、神門、岩宮、根古谷、岡田、用草、稲葉、西御門、大谷流、小谷流
150		逆巻郡	野田郷	野田郷	野田郷	野田郷	野田郷	野手	野手村、野手、今泉、長谷、川邊、新掘
151		逆巻郡	長尾郷	長尾郷	長尾郷	長尾郷	長尾郷	(長居郷) 未詳	生尾村、老尾神社、生尾、宮本、山松、松山、中臺、富岡、田久保
152		逆巻郡	辛川郷	辛川郷	辛川郷	辛川郷	辛川郷	未詳 海上郡神宮寺 浦辺?	足川村、椎名内、中谷里、及川、東足洗、西足洗、網戸、野中、三川
153		逆巻郡	千俣郷	千俣郷	千俣郷	千俣郷	千俣郷	未詳	千又川、飯高、内山、飯塚、小高、安久山、金原、大掘、片子
154		逆巻郡	山上郷	山上郷	山上郷	山上郷	山上郷	(川上郷) 未詳	八邊村、八邊、南山崎、入山崎、吉田、長岡、大浦、木積、久方
155		逆巻郡	幡間郷	幡間郷	幡間郷	幡間郷	幡間郷	未詳	尾垂總領村濱、木戸、柏田、掘川、原方、上原、目篠
156		逆巻郡	石室郷	石室郷	石室郷	石室郷	石室郷	豊栄村、南条村	小川臺村岩室山新善光寺、小川臺、傍尻戸、小田部、貝塚、母子、富下、蟲生、芝崎、賣米、二又、市原、新井、篠本
157		逆巻郡	逆巻郷	逆巻郷	逆巻郷	逆巻郷	逆巻郷	匝瑳村福岡町	東小篠、西小篠、椿、龍部田、谷中、東小篠、西小篠、平木、吉崎、神宮寺、大塚原、東谷、川口
158		逆巻郡	逆加郷	逆加郷	須加郷	須加郷	須加郷	須賀村	横須賀村、横須賀、八日市場、富谷、米倉、飯倉、時曾根、笹曾根、高野、高、蕪里
159		逆巻郡	大田郷	大田郷	大田郷	大田郷	大田郷	旭町大字大田	大田村、大田、井戸野、泉川、川向、駒込、萩野、成田、十日市場、仁玉、江崎
160		逆巻郡	日部郷	日部郷	日部郷	日部郷	日部郷	山倉村(南志高草壁)	長部村、志高村草壁、長部、古内、志高、諸徳寺、溝原、神田、和田、櫻井
161		逆巻郡	玉作郷	玉作郷	玉作郷	玉作郷	玉作郷	常磐村大字玉造	玉造村、玉作、方田、川島、松崎、山倉、大角、坂、柏熊
162		逆巻郡	田部郷	田部郷	田部郷	田部郷	田部郷	栗源村大字田部	田部村、田部、三倉、小三倉、谷三倉、刈毛、岩部、荒北、助澤、澤、伊地山、高萩
163		逆巻郡	珠浦郷	珠浦郷	珠浦郷	珠浦郷	珠浦郷	未詳	鑄山山光明寺、鑄木村、鑄木、大寺、小川、新里、鳩山、桐谷、松澤、堀内
164		逆巻郡	原郷	原郷	原郷	原郷	原郷	(金原郷) 飯高村金原?	(幡羅)、寺作、御所臺、井戸山、多古、染井、高津原、大門、檜木、出沼、次浦、古内
165		逆巻郡	栗原郷	栗原郷	栗原郷	栗原郷	栗原郷	久賀村?	栗山村、栗山、横芝、古川、兩國、宮川
166		逆巻郡	茨城郷	茨城郷	茨城郷	茨城郷	茨城郷	東条村、多古村	小原子村、飯篠、間倉、井野、大原、東臺、東佐野、中佐野、五反田、小原子
167		逆巻郡	中村郷	中村郷	中村郷	中村郷	中村郷	中村	南中村、北中村、和田、借當、並木、北場、久保、谷、宮、本郷、宿、横宿、芝、西谷、東谷、郷部、唐竹林、鴻巣、野新田、大廻
168		相馬郡	大井郷	大井郷	大井郷	大井郷	大井郷	未詳	大井村、大島田、塚崎、藤心、増尾、高柳、戸張、箕輪、岩井、鷲谷、五條谷、金山、染井、泉、片山、手賀
169		相馬郡	相馬郷	相馬郷	相馬郷	相馬郷	相馬郷	木野崎、野田	大鹿、取手、臺宿、井野、青柳、吉田、小泉、澁沼、小文間、飯沼
170		相馬郡	布佐郷	布佐郷	布佐郷	布佐郷	布佐郷	布佐町、湖北村	布佐村布佐臺、布佐、大作、新木、布川、福本、立崎、中田切、立木、横須賀、曾根、大平、奥山、大房、早尾、羽黒
171		相馬郡	古溝郷	古溝郷	古溝郷	古溝郷	古溝郷	未詳 手賀村	(布西村) 布施村、久寺家、我孫子、柴崎、青山、高野山、下戸、岡發戸、都部、中峠、中里、古戸、日秀
172		相馬郡	意部郷	意部郷	意部郷	意部郷	意部郷	我孫子、富勢	(配松村、戸頭村)、高野、乙子、戸頭、米野井、野々井、市代、高井、岡、和田、山王、配松、桑原、寺田、稲村
173		相馬郡	余戸郷	余戸郷	余戸郷	余戸郷	余戸郷	未詳	未詳、守谷、野木崎、大柏、立澤、大木、大山、内守谷、板戸井、萱生、筒戸、新宿、平沼、御出子
174		相馬郡	(邑保郷)						
175		猿島郡	塔陀郷	塔陀郷	塔陀郷	塔陀郷	塔陀郷	七重村大字富田	
176		猿島郡	八俣郷	八俣郷	八俣郷	八俣郷	八俣郷	八俣村、逆井山村、幸島村	
177		猿島郡	高根郷	高根郷	高根郷	高根郷	高根郷	?	
178		猿島郡	石井郷	石井郷	石井郷	石井郷	石井郷	岩井村	
179		猿島郡	葦津郷	葦津郷	葦津郷	葦津郷	葦津郷	境町、長田村、猿島村	

1959「群郷分治」「房総通史」改訂房総叢書刊行会	「千葉県の地名」日本歴史地名大系第12巻 1996		
六合村大字吉高	印旛村吉高		
船穂村大字船穂	印西市船尾		
未詳	佐倉市白井?		
阿蘇村大字村上	八千代市村上		
和田村大字天辺	未詳		
野田村大字野手	野栄町野出?		
共興村大字長谷(ナカイ)	未詳		
海上郡矢指村大字足川	旭市足川?		
迎境村大字大浦字千俣	八日市場市飯塚		
吉田村大字八辺付近	八日市場市八辺?		
白浜村付近	未詳		
南条村大字小川台付近	光町小川台		
迎境村付近	未詳		
須賀村付近	八日市場市横須賀?		
海上郡旭村大字太田	旭市太田		
香取郡府馬村志高付近	未詳		
香取郡常盤村大字玉造付近	多古町南玉造		
香取郡栗源村大字西田部	栗源町西田部		
香取郡古城村鑄木(株の誤記)	未詳		
香取郡久賀村付近	多古町多古・染井		
香取郡吉田村吉田	八日市場市吉田		
香取郡多古町大字喜多等、大原郷	多古町大原・芝山町小原子?		
香取郡中村	多古町南中村・北中村		
風早村大字大井	沼南町大井?		
北相馬郡	未詳		
東葛飾郡布佐町大字布佐付近	我孫子市布佐・利根町布川		
東葛飾郡手賀村大字布瀬小字小溝	沼南町布瀬(小溝)		
北相馬郡	我孫子市中心部から柏市にかけて?		
未詳	未詳		

番号	国名	郡名	郷名	〔和名類聚抄〕活字本(元和3年)	〔和名類聚抄〕名簿本(永禄9年)	〔和名類聚抄〕東急本(室町中期)	〔和名類聚抄〕高山寺本(平安末)	吉田東伍 1972 『増補大日本地名辞書』第6巻 板東 富山房	榎岡良弼 1960 『安房・上総・下総』 『日本地理志料』改訂房総叢書刊行会
180		猿島郡	色益郷	色益郷	色益郷	色益郷	色益郷	未詳 釈迦沼付近(郡山)	
181		猿島郡	余戸郷	余戸郷	余戸郷	余戸郷	余戸郷	未詳	
182		結城郡	茂治郷	茂治郷	茂治郷	茂治郷	茂治郷	(茂侶郷) 茂呂村	
183		結城郡	高橋郷	高橋郷	高橋郷	高橋郷	高橋郷	細村大字高橋	
184		結城郡	結城郷	結城郷	結城郷	結城郷	結城郷	上山川村・山川村	
185		結城郡	小埴郷	小埴郷	小埴郷	小埴郷	小埴郷	細川村	
186		結城郡	余戸郷	余戸郷	余戸郷	余戸郷	余戸郷	未詳 下結城村・名崎村?	
187		結城郡	(小塩郷)					中結城村	
188		豊田郡	岡田郷	岡田郷	岡田郷	岡田郷	岡田郷	岡田村・豊田村	
189		豊田郡	飯猪郷	飯猪郷	飯猪郷	飯猪郷	飯猪郷	飯沼村・菅原村・豊岡村	
190		豊田郡	手向郷	手向郷	手向郷	手向郷	手向郷	総上村・豊加美村	
191		豊田郡	大方郷	大方郷	大方郷	大方郷	大方郷	西豊田村・安藤村	
192		海上郡	大倉郷	大倉郷	大倉郷	大倉郷	大倉郷	大倉村・豊浦村	大倉村、大倉・多田・吉原・丁子・一分目・三分目
193		海上郡	城上郷	城上郷	城上郷	城上郷	城上郷	神里村大字木内	木内村、本郷・八島・山川・上小掘・桑畑・新福寺・増田・
194		海上郡	(城内郷)						
195		海上郡	麻統郷	麻統郷	麻統郷	麻統郷	麻統郷	小見川町・八都村	小見村、小見・小見川・川上・高野・北原地・羽根川・下小川・八日市場・分郷・富田
196		海上郡	布方郷	布方郷	布方郷	布方郷	布方郷	府馬村	府馬村、府馬・田部・長岡・竹内・米野井・八本・神生・仁良
197		海上郡	軽部郷	軽部郷	軽部郷	軽部郷	軽部郷	未詳	鹿戸村、鹿戸・羽計・新宿・谷津・須賀山
198		海上郡	神代郷	神代郷	神代郷	神代郷	神代郷	神代村	大久保・溝原・關戸・舟戸・萬歳・櫻井・和田・神田
199		海上郡	編玉郷	編玉郷	編玉郷	編玉郷	編玉郷	森山村大字阿玉川	阿玉村、阿玉・阿玉臺・貝塚・久保・和泉・五郷内・布野・川頭
200		海上郡	小野郷	小野郷	小野郷	小野郷	小野郷	須賀山村	岡野臺村、岡野臺・中島・正明寺・三門・余山・蘆崎
201		海上郡	石田郷	石田郷	石田郷	石田郷	石田郷	橋村大字石出	石出村、今泉・宮原・諸持・下櫻井・東篠本・下森戸・富川
202		海上郡	石井郷	石井郷	石井郷	石井郷	石井郷	滝郷村大字大井	岩井村、岩井・松谷・清瀧・幾世・見廣・大間手・猿田・倉橋・蛇園
203		海上郡	須賀郷	須賀郷	須賀郷	須賀郷	須賀郷	未詳	未詳、小南・粟野・小座・八重徳・夏目
204		海上郡	橋川郷	橋川郷	橋川郷	橋川郷	橋川郷	(椅川郷) 足川村	田部西雲寺(橋寺)、岡飯田・平山・窪谷・小貝野
205		海上郡	横根郷	横根郷	横根郷	横根郷	横根郷	飯岡町大字横根	横根村、横根・岩崎・菜園・平松・行内・飯岡・上永井・下水井・小濱・親田・常世田・八木・堀
206		海上郡	三前郷	三前郷	三前郷	三前郷	三前郷	豊浦村大字三崎	三崎村、三崎・本城・松本・今宮・荒野・新生・飯沼・高神・小川戸・邊田
207		海上郡	三宅郷	三宅郷	三宅郷	三宅郷	三宅郷	海上村大字三宅	三宅村、三宅・柴崎・高野・松岸・長塚・垣根・四日市場・
208		海上郡	船木郷	船木郷	船木郷	船木郷	船木郷	船木村・椎柴村	舟木臺村、小船木村、高田・野尻・塚本・忍
209		香取郡	大槻郷	大槻郷	大槻郷	大槻郷	大槻郷	香取村返田・小野・油田	小野村・織幡村、返田・油田・白井・瀧谷・内野
210		香取郡	香取郷	香取郷	香取郷	香取郷	香取郷	香取町・津宮村	香取神社・香取村、香取・新部・新市場・釜塚・牧野・佐原・篠原・津宮
211		香取郡	小川郷	小川郷	小川郷	小川郷	小川郷	大戸村大字小川	上小川村、大戸・大戸川・森戸・新寺・岩崎・玉作・山野邊・片野・關・鶴崎・谷中
212		香取郡	健田郷	健田郷	健田郷	健田郷	健田郷	米沢村大字武田	武田村、武田・立野・大貫・郡・掘ノ内・高谷・西部田・西坂・寺内・西和田・毛成・原宿・古山
213		香取郡	磯々郷	磯々郷	磯郷	磯々郷	磯郷	(磯部郷) 長沼の流江	殖生郡磯部村、水掛・高倉・幡谷・土屋・大室・成井・成毛
214		香取郡	訳草郷	訳草郷	訳草郷	訳草郷	訳草郷	(真敷郷) 未詳	(驛家・荒海驛)、飯岡・大生・蘆田・東和泉・西和泉・小泉
215		香取郡	(山幡郷)						
216		殖生郡	玉作郷	玉作郷	玉作郷	玉作郷	玉作郷	八生村	松崎村二宮明神、上福田・下福田・大竹・寶田
217		殖生郡	山方郷	山方郷	山方郷	山方郷	山方郷	成田町・遠山村	(遠山形御所『神風抄』)、金山・久米・畑田・東和田・川栗・馬場・大山・山作・小菅・吉倉・駒井野・取香
218		殖生郡	麻在郷	麻在郷	麻在郷	麻在郷	麻在郷	(麻生郷) 安食町麻生	麻生村、須賀・興津・安食・佐野・北邊田・矢口・龍角寺・酒直
219		殖生郡	酢取郷	酢取郷	酢取郷	酢取郷	酢取郷	(羽鳥郷) 豊住村羽鳥	南羽鳥村・北羽鳥村、長沼・龍臺・田川・安西

1959「群郷分治」『房総通史』改訂房総叢書刊行会	『千葉県の地名』日本歴史地名大系第12巻 1996		
香取郡大倉村	佐原市大倉		
香取郡神里村木ノ内	小見川町木内 小見川町木内		
香取郡八都村米野井	山田町小見・小見川町小見川		
香取郡府馬村	山田町府馬		
香取郡府馬村黒部か	東庄町鹿戸		
香取郡神代村（旧上代）	東庄町大久保・船戸、干潟町桜井		
香取郡良文村及び森山村	小見川町阿玉台		
香取郡東条村小南小栗野か	未詳		
香取郡橋村大字石出	東庄町石出？		
滝里村大字岩井	海上町岩井 未詳		
香取郡橋村付近	未詳		
飯岡町大字横根付近	飯岡町横根		
豊浦村大字三崎付近	鏡子市三崎町		
海上村大字三宅付近か	鏡子市三宅町？		
船木村大字船木・推柴村大字小船木	鏡子市船木台・小船木		
香取町及び神里村付近	佐原市小野・多田・小見川町織幡		
香取町付近	佐原市香取		
東大戸村小字上小川付近か	佐原市上小川		
米沢村大字武田付近	神崎町武田		
久住村大字磯部	成田市磯部		
未詳	未詳 小見川町織幡・旗鉾		
未詳	成田市松崎・福田		
印旛郡遠山村付近	成田市東和田・畑ヶ田		
印旛郡安食町大字麻生	栄町麻生・酒直・安食		
印旛郡豊住村南羽島・北羽島	成田市羽島		

第2表 地名関連文字資料一覧表

	旧国名	旧郡名	旧郷名	文字史料・資料ほか	種別	暦年	出土遺跡等	出典	備考
2	安房国			安房国	木簡		平城京二条大路東西大溝（北）	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』29-32下(370)	
3		平群郡		□(群カ)郡	木簡		平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構（南）	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』32-23下(401)	(大和国平群郡)
4		平群郡	砥河郷						
5		平群郡	余戸郷						
6		平群郡	達良郷						
7		平群郡	石井郷	安房国平群郡□井郷腹腊□籠□納四斤	木簡		平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構（南）	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』31-27上(383)	
8		平群郡	石井郷	石井前分贄阿治	木簡		藤原京右京五条四坊	木簡学会『木簡研究』15	(摂津国武庫郡)石井郷カ・(山城国紀伊郡・河内国讃良郡・安房国平群郡・下総国猿島郡・下総国海上郡・上野国碓氷郡・因幡国巨濃郡・伊与国周敷郡・伊与国)
9		平群郡	狭隈郷	上総国平群郡狭隈郷□丁若麻績マ麻呂養銭六百文	木簡		平城宮	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』19-21下(189)	
10		平群郡	狭隈郷	狭隈郷前□	木簡		宮町遺跡	信楽町教育委員会『宮町遺跡出土木簡概報1』1・木簡学会『木簡研究』1	
11		平群郡	長門郷					2006.3.27 21:53	
12		平群郡	大里郷	平群郡大里郷戸主丸子部三國戸服織部(屋カ・尼カ)万呂	布墨書			『正倉院調庸綾布墨書銘文』	
13		平群郡	大里郷	大里	墨書土器		坊作遺跡	宮本敬一「上総国分寺の成立一尼寺の造営過程を中心に」『東海道の国分寺一その成立と変遷一』栃木県教育委員会	市原市惣社
14		平群郡	穂田郷						
15		平群郡	川上郷	川上郷赤米	木簡		平城宮	奈文研『平城宮木簡』2	(近江国高島郡・飛騨国益田郡・越中国礪波郡・丹後国熊野郡・肥前国基肄郡・肥前国小城郡・大隅国肝属郡・薩摩国河辺郡)川上郷
16		平群郡	川上郷	川上郷米〔	木簡		長岡京	向日市教委・(助)向日市埋文センター『長岡京木簡』2-909	(近江国高島郡川上郷・飛騨国益田郡川上郷(飛騨国大野郡川上郷)・越中国礪波郡川上郷・丹後国熊野郡川上郷・肥前国基肄郡川上郷・肥前国小城郡川上郷・大隅国肝属郡川上郷・薩摩国河辺郡川上郷)
17		平群郡	駅家郷						
18		平群郡	白浜郷	平群郡□□(白濱カ)郷清□(岑)里大弓マ徳細布沓端長四丈二丈天平九年〔	布墨書	737		『正倉院調庸綾布墨書銘文』	
19	安房郡			上総国阿幡郡鯁□(調カ)耳放二編三列〔	木簡		平城宮	奈文研『平城宮木簡』2	
20	安房郡			上総国□□(阿幡カ)郡□	木簡	8C前	平城京左京三条二坊一・二・七・八坪長屋王邸	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』27-18下(248)	
21	安房郡			安房国安房郡□	木簡		平城宮式部省東方・東面大垣東一坊大路西側溝	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』34-15上(92)・木簡学会『木簡研究』2	
22	安房郡	太田郷		安房国安房郡太田郷大屋里戸主大伴部黒秦戸口日下部金麻呂輪鯁〔	木簡	735	平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構（北）	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』24-26上(251)・城29	
23	安房郡	塩海郷		安房国安房郡塩海郷賀宝里戸矢田部法万呂 輪鯁調陸斤ノ参拾参條ノ十月	木簡		平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構（南）	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-30下(303)	
24	安房郡	塩海郷		安房国安房郡塩海郷賀宝里戸矢田部些万呂輪鯁調陸斤ノ伍拾條ノ天平七年十月	木簡	735	平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構（南）	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-31上(313)	

	旧国名	旧郡名	旧郷名	文字史料・資料ほか	種別	暦年	出土遺跡等	出典	備考
25		安房郡	塩海郷	安房国安房郡塩海郷□屋里戸主日下部小床輪調陸斤／伍拾伍條／天平七年十月	木簡	735	平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-32上(314)・同33	
26		安房郡	塩海郷	安房国安房郡塩海郷播羅里若田部宮□(足カ)／〔〕陸斤陸拾條／天平七年十月Ⅱ	木簡	735	平城京左京二条二坊二条大路濠状遺構(北)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』24-26上(250)	
27		安房郡	塩海郷	安房国安房郡塩海郷□□里戸主大伴部□□□大伴〔〕麻呂□	木簡		平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』31-27上(384)	
28		安房郡	塩海郷	鹿屋里日下部小□支輪調陸斤肆拾壹条／天平七年十月Ⅱ	木簡	735	平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』31-27下(385)・木簡学会『木簡研究』	
29		安房郡	塩海郷	□神屋里戸白髮部百足輪調陸斤／參拾壹条上／天平七年十月Ⅱ	木簡	735	平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』31-27下(386)・木簡学会『木簡研究』	
30		安房郡	麻原郷						
31		安房郡	大井郷	安房国安房郡大井郷大嶋里矢作部□乎戸矢作〔〕調陸斤／〔〕／年十月Ⅱ	木簡		平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-30上(299)	
32		安房郡	大井郷	安房国安房郡大井郷小野里戸主城部忍麻呂戸城部稲麻呂輪調六斤／六十條／天平七年十月Ⅱ	木簡	735	平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-31上(311)	
33		安房郡	大井郷	安房国安房郡大井郷小野里戸主矢作部真刀良輪調陸斤／伍拾伍條／天平七年十月Ⅱ	木簡	735	平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-31上(312)	
34		安房郡	河曲郷						
35		安房郡	(廣湍郷)	安房国安房郡廣湍郷沙田里神麻部□□	木簡		平城京左京二条二坊五坪	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』26-20下	
36		安房郡	(廣湍郷)	安房国安房郡廣湍郷沙田里戸丈部大床調陸六斤／伍拾条／天平七年十月	木簡	735	平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-30下(301)・木簡学会『木簡研究』	
37		安房郡	(廣湍郷)	安房国安房郡廣湍郷沙田里大田部□	木簡		平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』31-27下(388)	
38		安房郡	(廣湍郷)	安房国安房郡廣湍郷川曲里大伴部宮麻呂調陸斤	木簡		平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-30下(302)・木簡学会『木簡研究』	
39		安房郡	(廣湍郷)	安房国安房郡廣湍郷河曲里丈部牛麻呂輪調陸斤／陸拾條／天平七年十月	木簡	735	平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-31上(308)・木簡学会『木簡研究』	
40		安房郡	(廣湍郷)	安房国安房郡廣湍郷川曲里戸丈部牛麻呂調陸斤／陸拾條／天平七年十月	木簡	735	平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-31上(309)・木簡学会『木簡研究』	
41		安房郡	(廣湍郷)	安房国安房郡廣湍郷河曲里生田部大麻呂輪調陸六斤／伍拾壹／天平十一年十月Ⅱ	木簡	739	平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-31上(310)・木簡学会『木簡研究』	
42			(廣湍郷)	安房國群房東西庄]事,(中略)惣領事,割廣瀬郷充年]貢之分	中世文書	1280		「安房國守護遵行状」『三芳村史編纂資料』II 1981	
43			(廣湍郷)	宮領同國郡(群)房庄廣瀬]郷北方事,	中世文書	1390		「安房國守護遵行状」『三芳村史編纂資料』II 1981	
44		安房郡	白浜郷]安房郡白濱郷□(尾カ)屋里戸主□□□〔〕〕 (神) 龜四年閏九月	木簡	727	平城宮	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』19-21下	註(2)
45		安房郡	白浜郷	上総国安房郡白濱郷戸主日下部床万呂戸白髮部嶋輪調陸斤○／參拾条／天平十七年十月Ⅱ	木簡	745	平城宮	奈文研『平城宮木簡』1-337・木簡学会『木簡研究』21	
46		安房郡	白浜郷	安房国安房郡白□□	木簡		平城宮	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』19-21下	
47		安房郡	白浜郷	安房国安房郡白浜郷長□	木簡		平城京左京七条一坊十六坪	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』31-9上(37)	
48		安房郡	神戸郷						
49		安房郡	神余郷						
50		安房郡	(公余郷)	安房国安房郡公余郷賀茂里矢田部宮麻呂輪調六斤／肆拾肆條／天平八年十月	木簡	736	平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-32上(316)	
51		安房郡	(公余郷)	安房国安房郡公余郷賀茂里戸主大伴部辛子戸大伴部廣足輪調陸斤／伍拾條／天平七年十月Ⅱ	木簡	735	平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-32上(319)	
52		安房郡	(公余郷)	安房国安房郡公余郷長尾里／戸主大伴部忍麻呂／大伴部黒秦] 調陸斤／陸拾伍條天平七年十月Ⅱ	木簡	735	平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-32上(317)	

	旧国名	旧郡名	旧郷名	文字史料・資料ほか	種別	暦年	出土遺跡等	出典	備考
53		安房郡	(公余郷)	安房国安房郡公余郷長尾里戸主許世部兼調陸斤〔〕／天平七年十月Ⅱ	木簡	735	平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-32上(318)	
54		安房郡	(公余郷)	安房国安房郡公余〔	木簡		平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』31-27下(387)	
55		安房郡	(松樹郷)	己亥年十月上扶国阿波評松里〔	木簡	699	藤原宮	木簡学会『木簡研究』5-84頁・(51)(奈良)	
56		安房郡	(松樹郷)	安房国安房郡松樹郷小坂里戸大伴部高根輪調陸斤條伍拾伍條／天平七年十月Ⅱ	木簡		平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-31下(306)	
57		安房郡	(松樹郷)	安房国安房郡松樹郷御井里戸白髮部富□輪調陸□／〔〕／七年十月Ⅱ	木簡		平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-31下(307)	
58		安房郡	(松樹郷)	安房国安房郡松□	木簡		平城京二条大路東西大溝(北)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』29-32下(371)	
59		安房郡	(片岡郷)	安房国安房郡片岡郷長野里矢田部荒城輪調陸斤／伍拾□(似カ)條／天平七年十月	木簡	735	平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-30下(300)	
60		安房郡	(片岡郷)	安房国安房郡片岡郷長野里戸刑部廣国戸口丸子部麻々呂輪調陸斤／陸／拾條／天平七年十月	木簡	735	平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-32上(315)	
61		安房郡	(片岡郷)	安房国安房郡片岡郷瀧邊里戸卜部黒麻呂輪調陸斤／伍拾伍條／天平七年十月	木簡	735	平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』24-26上(248)・木簡学会『木簡研究』	
62		安房郡	(片岡郷)	・上総国阿波郡片里里服織部小□戸服織部麻呂調老東・○上総国阿波郡	木簡		平城宮	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』12	
63		安房郡	(利鹿郷)	安房国安房郡利鹿郷岡名里私部金調陸斤／伍拾伍條／天平七年十月	木簡	735	平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-31上(304)	
64		安房郡	(利鹿郷)	安房国安房郡利鹿郷□□里日下□調陸斤／伍拾條／天平七年十月	木簡	735	平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-31上(305)	
65		安房郡	(□□郷)	安房国安房郡□□郷三富里矢田部□□□(輪カ)調陸六斤〔〕	木簡		平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-32上(320)	
66		朝夷郡		安房国朝夷郡□	木簡		平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』31-27下(389)	
67				上総朝〔〕輪調陸〔〕〔〕	木簡		宮町遺跡	信楽町教育委員会『宮町遺跡出土木簡概報1』1・木簡学会『木簡研究』1	
68				(天平勝寶七歳乙未二月相替遺筑紫諸國防人等歌)右一首朝夷郡上丁丸子連大歳(／二月九日上総國防人部領使少目從七位下次田連沙弥麻呂進歌數十九首但拙劣歌者不取載之)	歌謡	755		『万葉集』20/4353	
69				吾瀬子乎 莫越山能 喚子鳥 君喚變瀬 夜之不深刀尔	歌謡			『万葉集』10/1822	
70		朝夷郡	御原郷						
71		朝夷郡	新田郷						
72		朝夷郡	大瀨郷						
73		朝夷郡	満祿郷	(尾端)朝夷郡満祿郷戸主□部廣□(庭)調細布沓端長四丈二尺 天平勝宝八歳十一月	布墨書	756		『正倉院調庸綾布墨書銘文』	
74		朝夷郡	健田郷	安房国朝夷郡健田郷仲村里戸私部眞鳥調陸六斤三列長四尺五寸東一束養老六年十月	木簡	722	平城宮	奈文研『平城宮木簡』2	
75		朝夷郡	健田郷	□(朝カ)夷郡健田郷中村里戸主□(額カ)	木簡		平城京左	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』30-32下(1049)	
76		朝夷郡	健田郷	「安房国朝夷郡健田郷」柏原里卜部神調陸六斤為壺籠五烈／長三尺／天平五年十月	木簡	733	平城京左京三条二坊二条大路濠状遺構(南)	奈文研『平城宮発掘調査出土木簡概報』22-32上(321)・木簡学会『木簡研究』	
77		朝夷郡	健田郷	上総朝夷郡健田郷戸主額田部小君戸口矢作部林調陸六斤／□□□(條カ)／天平十七年十月Ⅱ	木簡	745	平城宮	奈文研『平城宮木簡』1-338	